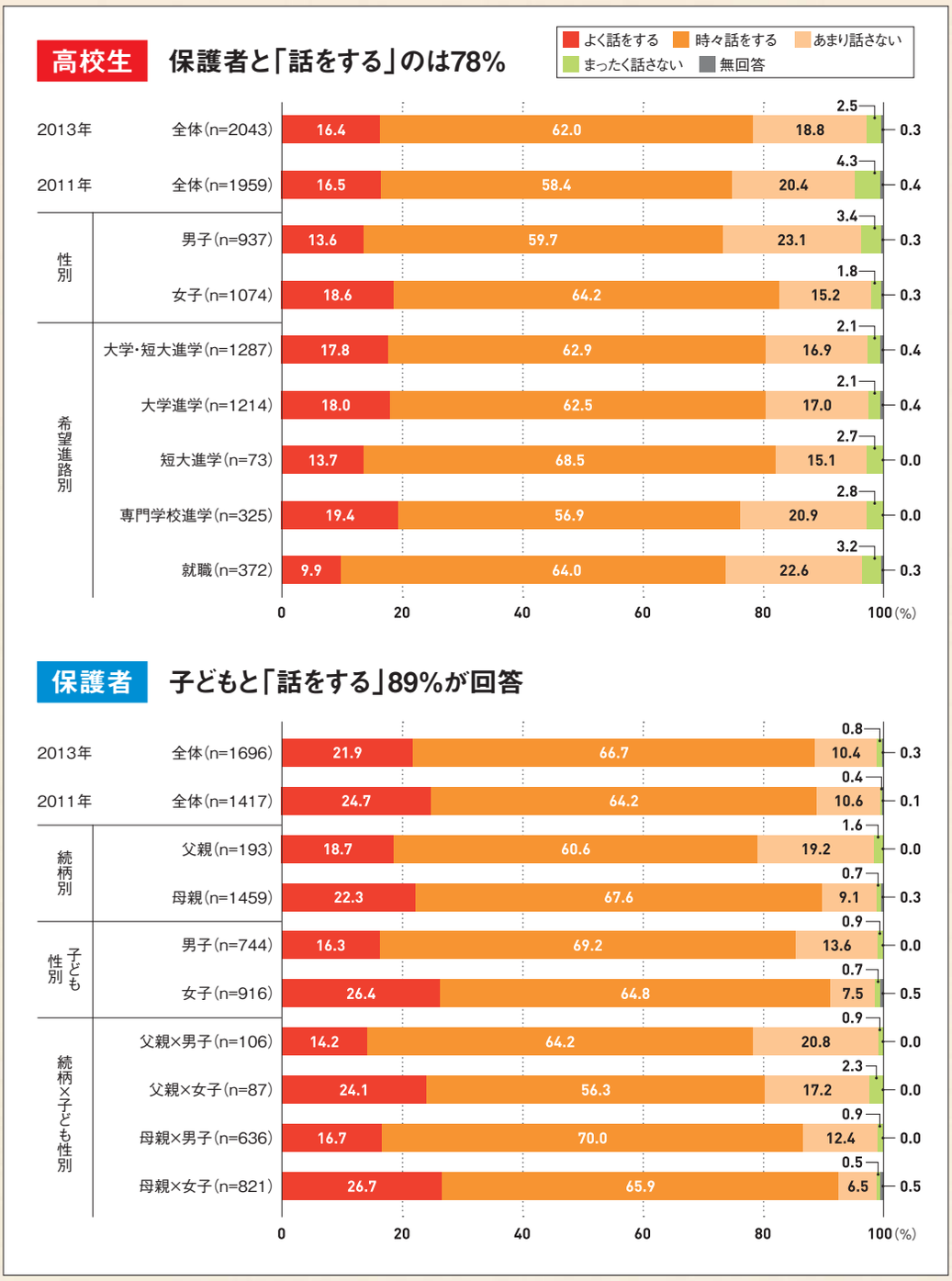
01 進路について高校生と保護者は話をしているか

▲前回調査よりさらに増加

図1 進路について話す頻度（高校生・保護者／単一回答）



母親と娘の会話が特に活発な印象

高校2年生秋の時点で、卒業後の進路について保護者と話しているかという質問に、高校生の16%が「よく話をする」と回答。「時々話をする」の62%を合わせ78%が会話（図1）。合計値では前回11年より増加。性別にみると女子は男子よりも「話をする」割合が多く、希望進路別では就職希望者は大学・短大、専門学校進学希望者に比べ「話をする」割合が少ない。

同様に保護者に対しても子ども（高校生）と進路について話しているか尋ねたところ、22%が「よく話をする」と回答。「時々話をする」を合わせ89%と、高校生の回答を上回る。保護者は前回11年より横ばい推移である。続柄×子ども性別にみると、母親×女子（娘）で「話をする」が9割を占めており、女性同士の親子間で、進路についての会話が特に活発であることがうかがえる。

02

進路についてどんな話をしているか

「具体的進路」「将来の職業」「将来の夢」

図2 進路について話す内容（高校生：図1=「よく話をする」「時々話をする」回答者／複数回答）

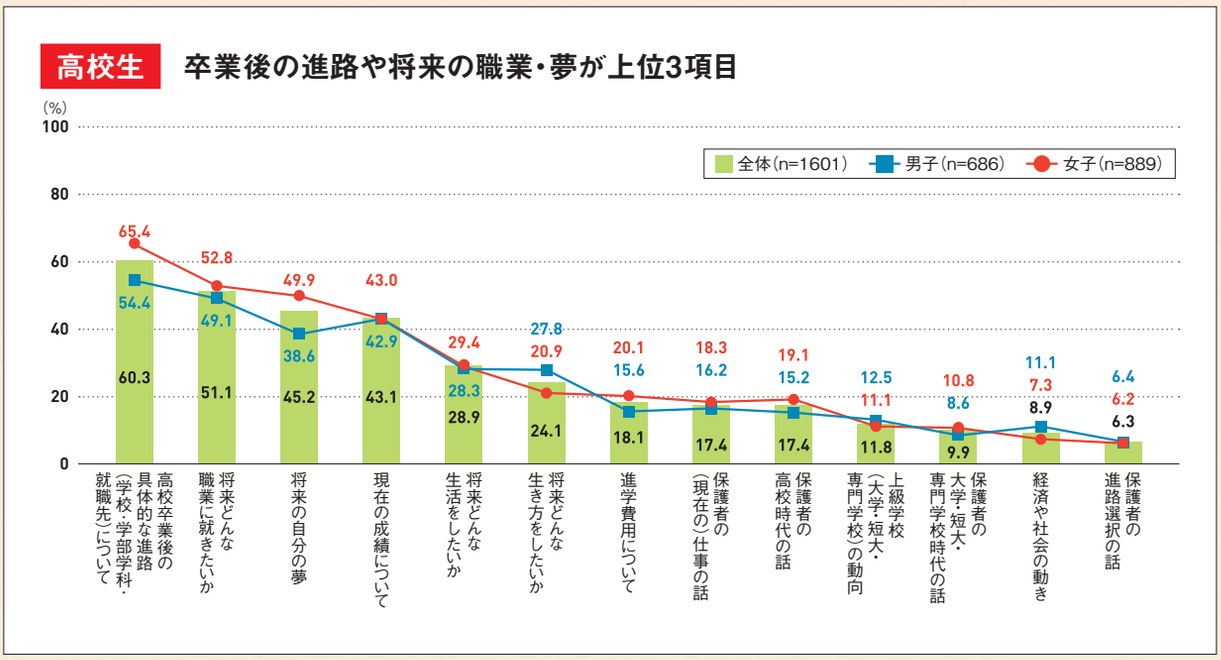
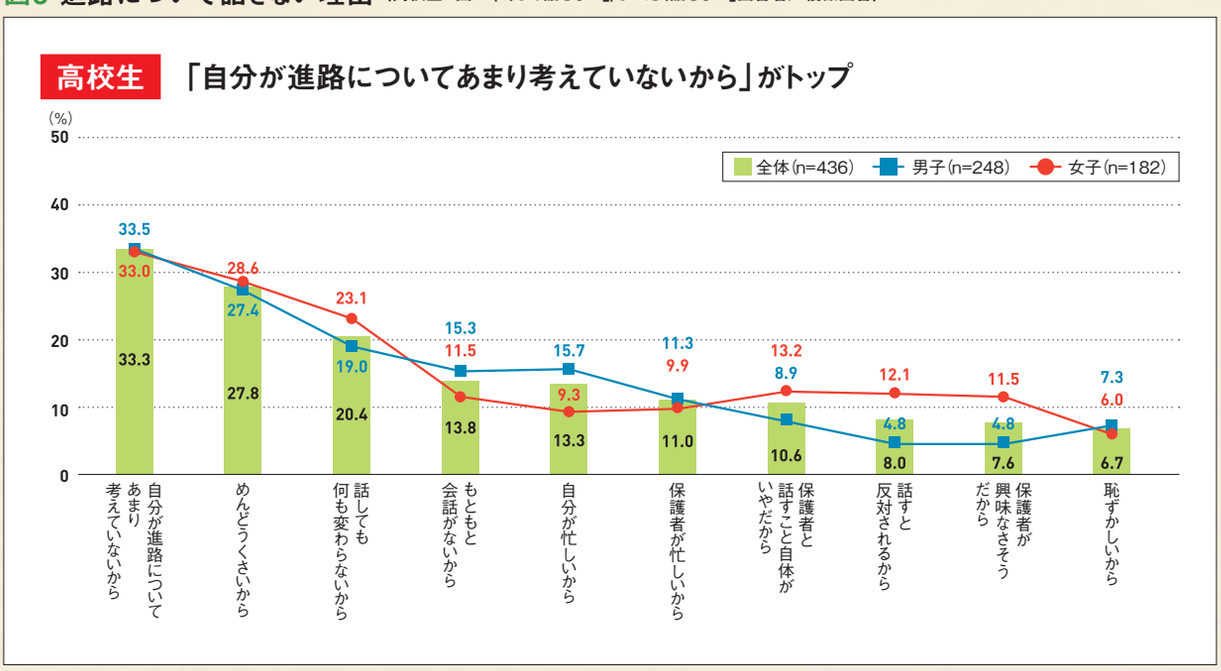


図3 進路について話さない理由（高校生：図1=「あまり話さない」「まったく話さない」回答者／複数回答）



男女差が大きい「将来の自分の夢」

進路について保護者と話すと回答した高校生に、話す内容をすべて選んでもらったところ、「高校卒業後の具体的な進路について」が60％でトップ（図2）。次いで「将来どんな職業に就きたいか」「将来の自分の夢」「現在の成績について」が挙がった。性別にみると女子は男子に比べスコアが高い項目が多く、会話の内容が幅広い。特に「高校卒業後の具体的な進路について」「将来の自分の夢」は男子を大きく上回る。男子のほうが高かったのは、「将来どんな生き方をしたいか」など。

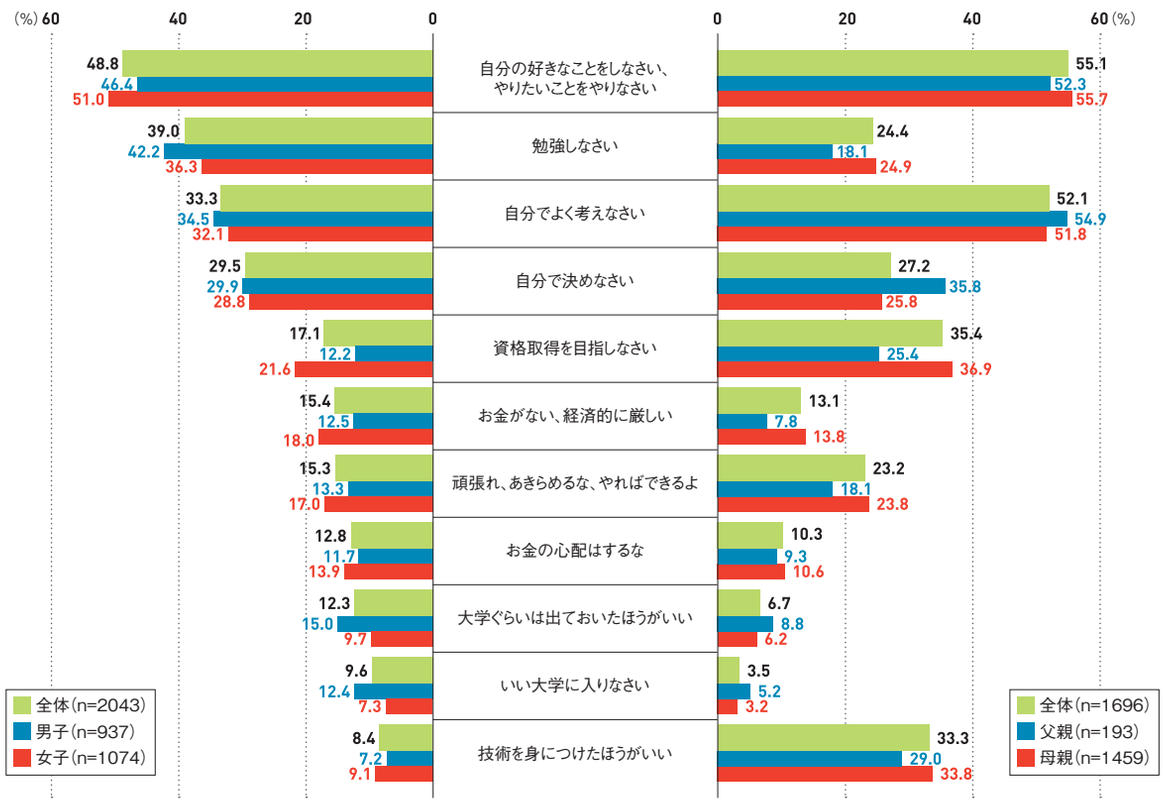
一方、進路について保護者と話さない高校生にその理由を質問したところ、「自分が進路についてあまり考えていないから」「めんどうくさいから」と、高校生自身の態度が上位（図3）。次いで「話しても何も変わらないから」「もともと会話がないから」と、保護者との関係による要因が続く。それに続いて高いのは「自分が忙しいから」で、性別では男子のほうが女子よりもスコアが高い。

03

保護者はどんな言葉を使うか

▲「やりたいことをやりなさい」が半数

図4 進路について話すときに保護者がよく使う言葉（高校生・保護者／複数回答）



●保護者の言葉をどう感じるか【高校生】

■自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい

●自分で決めさせてもらえるときはとてもうれしい［滋賀/女子/就職］
●頑張りたいという気持ちが出てくる［岩手/男子/大学］
●突き放された感じもするが、良い方向にとらえている［富山/男子/大学］
●いいことだと思うが、私に無関心なのかと思えてくる［滋賀/女子/大学］
●楽観的すぎるが、親の立場としてはプレッシャーをかけにくいので仕方がない［富山/男子/大学］

■勉強しなさい

●イラつく、ただ「勉強しなくては」とは思う［静岡/男子/大学］
●やってるし、成績も悪いほうじゃないのに言われると、やろうと思っていたこともやる気が失せるからやめてほしい［岩手/女子/就職］
●言われて腹立つが、図星であり反省する［静岡/男子/大学］
●わかっているつもりだが、なかなかうまく身につかないため少し焦ったり、言い返してしまう［静岡/男子/大学］

■自分でよく考えなさい

●自分もそのとおりだなと思うので、言われると改めて意識できるため、ありがたく感じている［神奈川/男子/大学］
●決めかねているから一緒に考えてほしい［香川/女子/専門学校］
●突き離されている感じがして寂しく思う。［神奈川/女子/大学］

■自分で決めなさい

●自分のしたいことをするために頑張ろうと思う［富山/男子/大学］
●そう言われても親の経済面を考えてしまう［富山/男子/大学］
●自分で決めなさいと言っておきながら反対する［岩手/女子/就職］

■資格取得を目指しなさい

●就職に有利になるから取っておこうと思った［岩手/女子/大学］
●手に職をつけないと、やっていけない時代なのかな［静岡/女子/大学］
●やりたいと思えることでなくても、資格のために進路を決めるべきなのか［滋賀/女子/大学］

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県/性別/希望進路］

「勉強しなさい」に親子のギャップ

進路の話をする時、保護者はどんな言葉を使うのか。高校生・保護者それぞれにとってあてはまる言葉をすべて選んでもらった（図4）。高校生・保護者とも回答トップは「自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい」。そのほかの言葉は差がみられる。高校生は「勉強しなさい」が39%だが、保護者は24%。保護者が言っている以上に高校生は言われている印象をもっている。逆に「資格取得を目指しなさい」「技術を身につけたほうがいい」は、保護者が思っているほどには高校生の耳に届いていない。

高校生に保護者の言葉をどう感じるか書いてもらった。上位の「好きなことをしなさい」「自分でよく考えなさい」に対し、自分に判断をまかされることを「うれしい」ととらえる意見がある一方、「一緒に考えてほしい」という意見も。「勉強しなさい」という言葉には、「やる気が失せる」「やっているのに評価してくれない」と反発する気持ちが多かった。

04

希望進路や悩み、不安を保護者は知っているか

▲希望進路の共有は上昇、悩みや不安は認識差あり

図5 高校生の希望進路の共有度（高校生・保護者／単一回答）

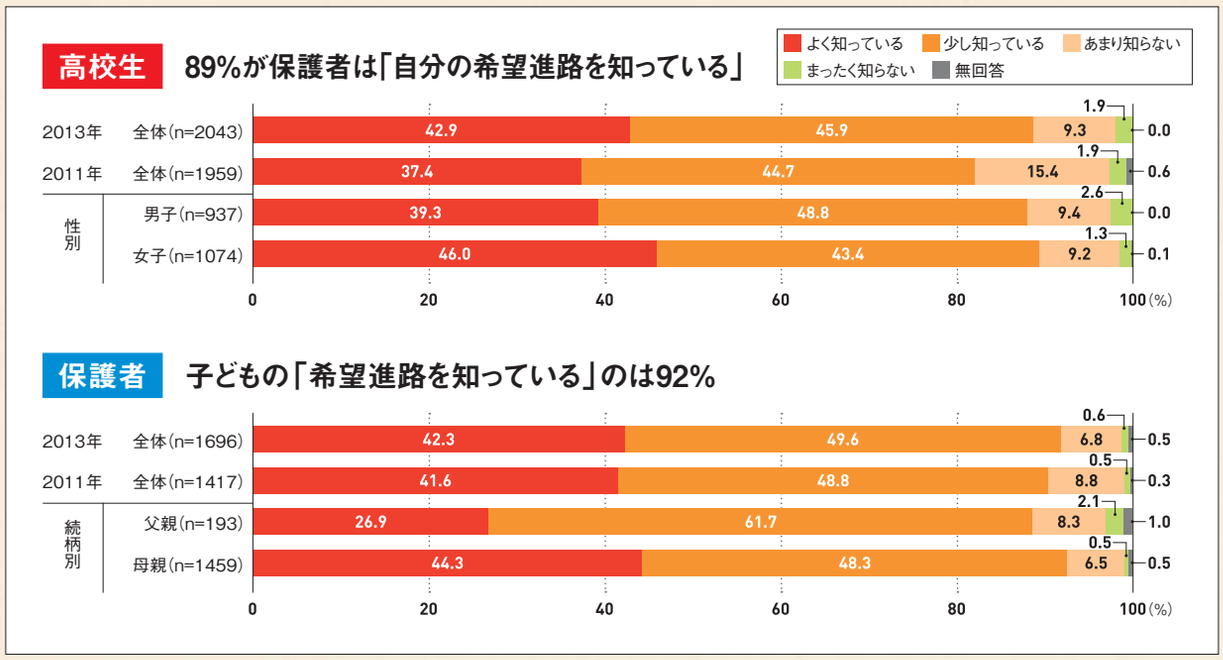
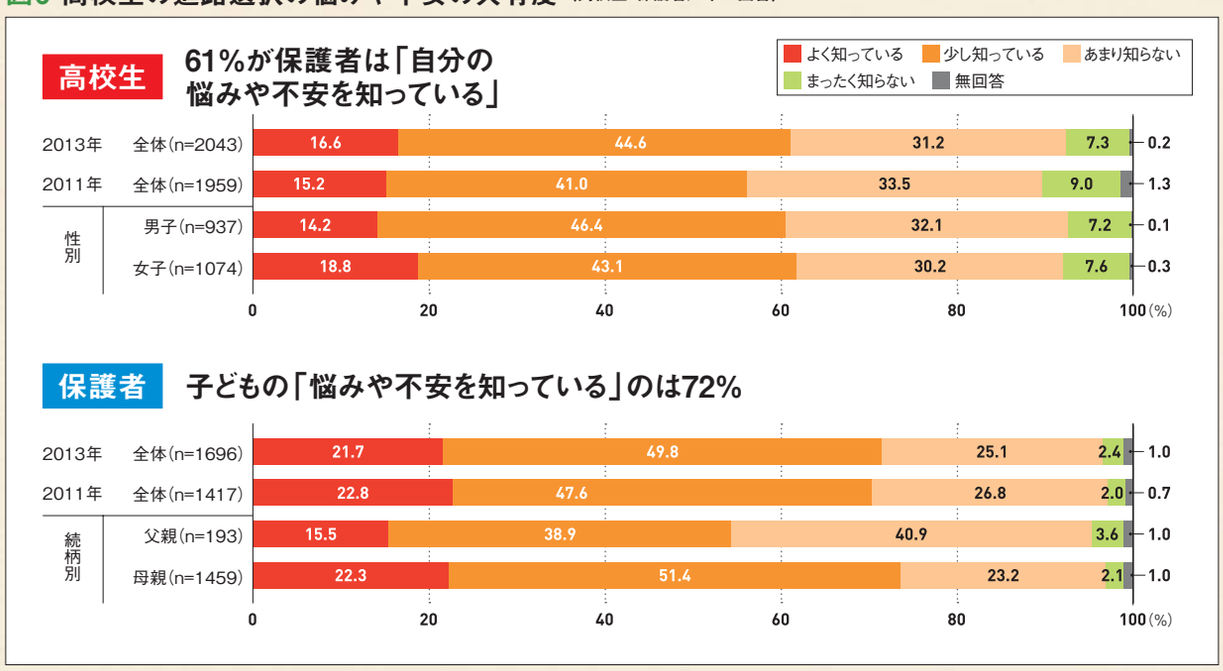


図6 高校生の進路選択の悩みや不安の共有度（高校生・保護者／単一回答）



子どもを上回る保護者の認識

高校生の希望進路を保護者はどの程度知っているか、両者に質問した（図5）。高校生の43%が保護者は自分の希望進路を「よく知っている」、「少し知っている」を合わせ89%が希望進路を共有していると回答。保護者は子どもの希望進路を「よく知っている」は42%、「少し知っている」を合わせ92%が希望進路を共有していると認識している。11年調査と比較すると、高校生では希望進路の共有度は上昇、保護者もやや上昇した。

次に、進路選択の悩みや不安の共有度を見た（図6）。保護者が自分の悩みや不安を「知っている」と見ている高校生は61%、「知っている」とする保護者は72%と保護者の認識が高校生を上回る。高校生は11年に比べ「知っている」割合が5ポイント上昇したが、保護者との認識の差はある。

希望進路も悩みや不安も、高校生は女子が男子よりも「知っている」、保護者は母親が父親よりも「知っている」割合が多い。

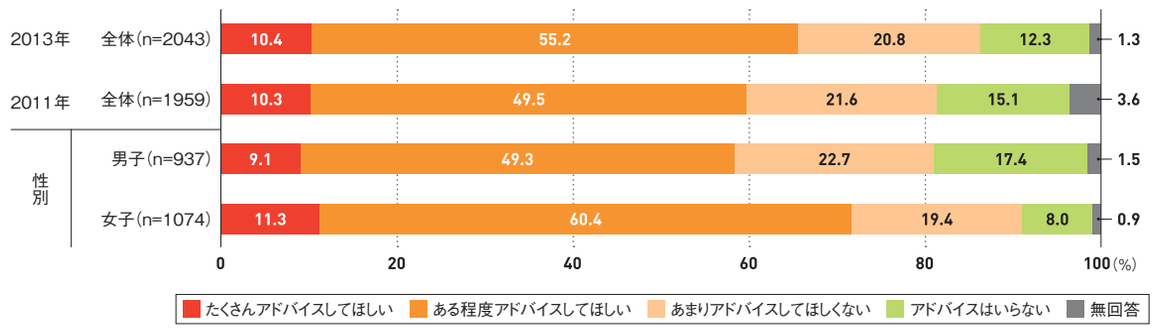
05

進路について保護者のアドバイスは必要か

▲上昇する子どもの希望

図7 進路選択について保護者からのアドバイス希望（高校生／単一回答）

高校生 66%が保護者からのアドバイスを求めている



●アドバイスしてほしい内容や理由【高校生】

■たくさんアドバイスしてほしい

●アドバイスをもらうと前向きになれるから［岩手/女子/専門学校］
●一番近くで支えてくれた人だから、一番なんでも話せるから［静岡/女子/大学］
●社会に出た先輩としてのアドバイスが欲しい［静岡/男子/大学］
●支えられている実感がわき、また頑張れるから［岩手/女子/就職］
●母が私の希望の職に就いていたので、その話をしたい［岩手/女子/大学］

■ある程度アドバイスしてほしい

●いつも話しすぎるとケンカしてしまうから、ある程度、相談に乗ってくれるくらいでよい［岩手/女子/専門学校］
●悩んでいても、放っておかれるのはいや［滋賀/女子/大学］
●自分で選択するつもりだけどお金のことが心配［神奈川/女子/専門学校］
●自分から尋ねたことにはしっかり返答してほしい［富山/男子/大学］

■あまりアドバイスしてほしくない

●アドバイスが逆にかせになってしまうことがあった［静岡/男子/大学］
●何か言えばマイナスなことを言ってくるから［滋賀/女子/専門学校］
●自分で心に決めていることが揺らいでしまいそうだから、あまり言ってほしくない［北海道/女子/大学］

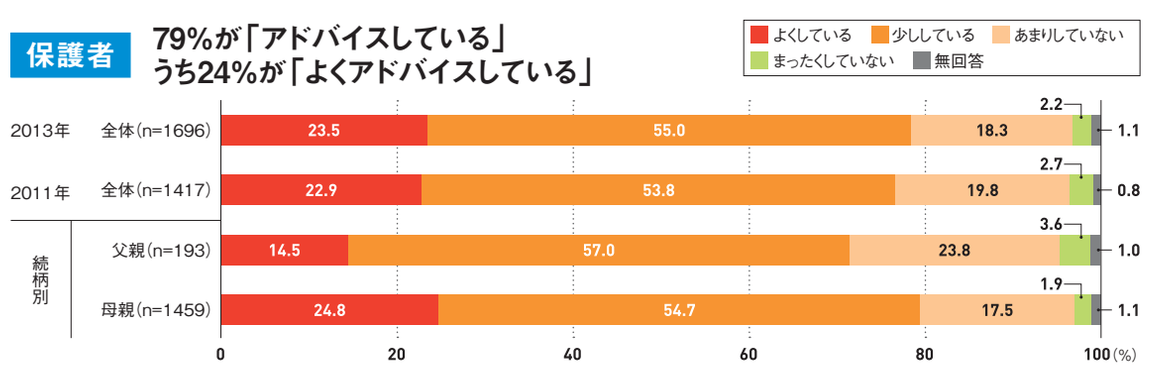
■アドバイスはいらない

●「自分でよく考えて選びなさい」と言うはず。自分もその考えに賛成だから［岩手/男子/大学］
●（保護者が）今の大学のことなどあまり知らないので、言われても納得できないから［東京/男子/大学］
●今と昔はだいぶ違うので、親より姉に聞いたほうがわかりやすいと思う［滋賀/女子/大学］
●無難な職に就かせようとしてるのが伝わってくるから［岩手/女子/就職］

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県/性別/希望進路］

図8 子どもの進路選択の悩みや不安に向けた保護者からのアドバイス（保護者／単一回答）

保護者 79%が「アドバイスしている」
うち24%が「よくアドバイスしている」



父親より母親がよりアドバイス

進路選択について保護者からアドバイスしてほしいかという質問に、高校生の10%が「たくさんしてほしい」、「ある程度してほしい」を合わせ66%がアドバイスを希望（図7）。性別では男子で58%、女子で72%と女子の希望する割合が高い。

希望するアドバイスの内容や理由を尋ねると、身近な「社会の先輩」としてのアドバイスを求める声が多い。「放っておかれるのはいや」「自分の質問には答えてほしい」など、個別にさまざまな要望があるようだ。

反対にアドバイスがいらない人の理由は「自分の意見に反対されるから」という不安や、「保護者が現在の進路選択の状況を知らない」などの不満が挙げられている。

保護者に、進路に関する子どもの悩みや不安にアドバイスしているか質問したところ、「よくしている」は24%。「少ししている」を合わせ79%（図8）。続柄別では父親よりも母親のほうがアドバイスをしているととらえている。

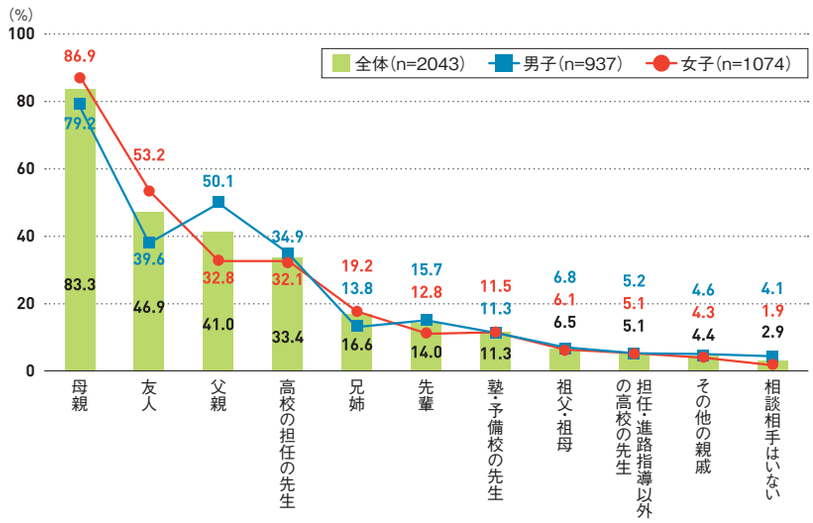
06

進路を誰と相談し、誰から影響を受けているか

▲圧倒的に母親が1位

図9 進路について相談する人 上位10項目（高校生／複数回答）

高校生 「母親」の83%が突出！



●一番の相談相手と、そう思う理由【高校生】

■母親
●母が家に居る日や一緒に居る時間が一番多いので［静岡/女子/大学］
●家の経済的なことも、自分の向いていそうな職業も知っているから［北海道/男子/就職］

■友人
●素直に話せるから。友人は否定しないから［岩手/女子/大学］
●同じ状況に置かれていてお互い励まし合えるから［岩手/女子/大学］

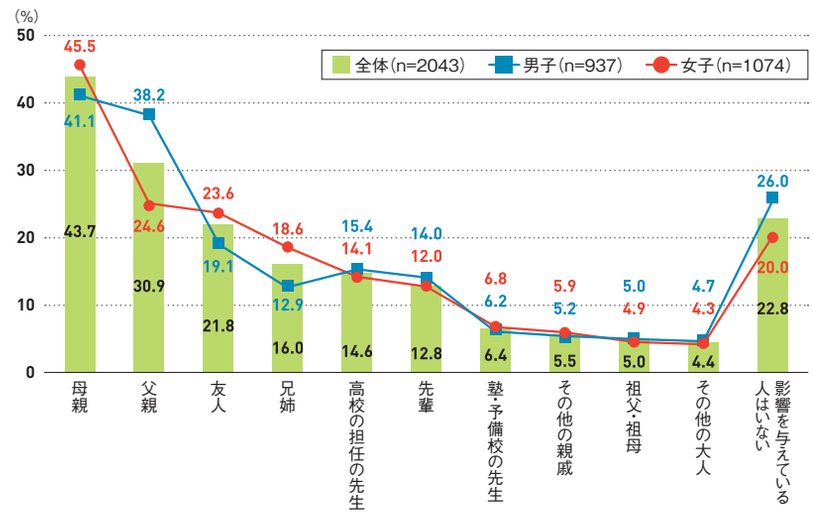
■父親
●自分の体験を元にたくさんのことを教えてくれるから［滋賀/女子/就職］
●一番理解してくれて適切なアドバイスをしてくれる［神奈川/男子/大学］

■高校の担任の先生
●信用できるし、たくさんの情報をもっているから［北海道/男子/大学］

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県/性別/希望進路］

図10 進路について影響を受ける人 上位10項目（高校生／複数回答）

高校生 1位「母親」44%、2位「父親」31%



●一番影響を受けている人と、そう思う理由【高校生】

■母親
●一番アドバイスをもらったり相談しているから［岩手/男子/大学］
●一緒に大学についての情報などを集めてくれるから［静岡/女子/大学］
●母の学生時代の話や就職、結婚の話が影響を与えている［香川/女子/大学］
●相談しても同じことを繰り返して言ってくるから［東京/女子/専門学校］

■父親
●家で一番たよれる人だから［北海道/男子/専門学校］
●やりたいことを職業にしていて尊敬する［岩手/女子/大学］
●影響というよりもプレッシャー［佐賀/男子/就職］
●父が最終的に進路を許可するかどうか決めるから［東京/男子/大学］

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県/性別/希望進路］

気軽に相談できる母親 社会体験を期待される父親

高校生は進路について誰と相談しているか質問したところ、「母親」が83%と突出。50%を切るが、「友人」「父親」が続いた（図9）。性別では男女とも「母親」が圧倒的なトップで、2番めに男子は「父親」、女子は「友人」が続く。

一番の相談相手に関してその理由を尋ねると、「母親」は一緒にいる時間が長く気軽に相談できる親近感、「父親」は社会人経験に基づくアドバイスへの期待感が多く挙がった。

進路について影響を受ける相手としても「母親」が最も多い（図10）。次いで「父親」が、影響力では「友人」を上回り2番めに。性別では男子は「父親」が、女子は「母親」が比較的高い。3番めは「影響を与えている人はいない」。この図中にはないが、この人たちを進路対話頻度別（図1）で見てみると、保護者と「話す」人よりも、「話さない」人のほうがずっと多かった。コミュニケーションの少なさが心配である。

07

保護者は子どもに仕事の話をしているか

▲前回調査より減少

父親は母親よりも仕事の話をしていない

保護者は自身の仕事の内容、楽しさや大変さを話しているか両者に質問した（図11）。高校生は15%が「よく話す」、「時々話す」を合わせ44%が話しているととらえている。女子は50%と半数が「話す」が男子は37%に留まる。

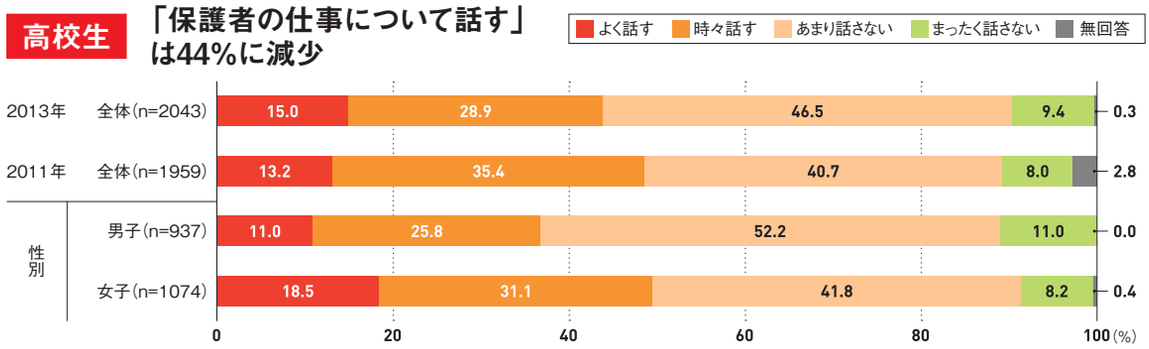
高校生に対して保護者が話している内容を尋ねると、「仕事でその日あったこと」「人間関係」「愚痴」などの日々のできごとに加え、「仕事のやりがい」など、働くことの意義や、保護者が大切にしている仕事の価値観についても話している。

一方、保護者は「よく話す」が21%、「時々話す」を合わせると66%が話しているととらえており、父親よりも母親のほうがその認識は強い。

保護者が高校生に対して話している内容を尋ねたところ、「日々のできごと」「仕事のやりがい」だけではなく、「再就職しやすい職業」「資格取得の必要性」など自分の経験に基づく職業選択の具体的なアドバイスを行っているケースも見られた。

図11 保護者の仕事（内容、楽しさ、大変さ）についての会話（高校生・保護者／単一回答）

高校生 「保護者の仕事について話す」は44%に減少

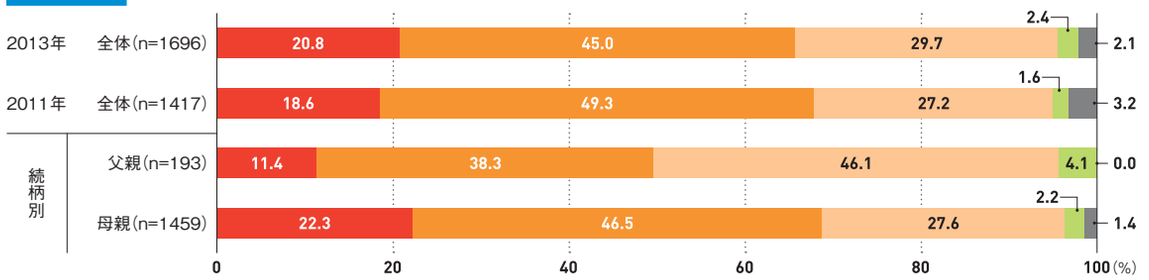


●保護者が話している内容【高校生】

●仕事場で親はどう過ごしているのか。新人はどんな人か［北海道/男子/大学］
●職場の愚痴。ドラマみたいでおもしろい（笑）［北海道/女子/大学］
●仕事は嫌なこともあるが楽しい。友達もできる。家族を幸せにできる［富山/男子/大学］
●人間関係のこと、体力的なこと、家事との両立のこと［静岡/女子/就職］
●一生懸命働くことで得られる充実感のすばらしさ［静岡/女子/大学］
●仕事での失敗や愚痴などを一方的に話してくる［富山/男子/大学］
●父が仕事に就いた経緯、どういう仕事かなど［東京/男子/大学］
●自営業ならではのいいところと悪いところ［佐賀/女子/専門学校］
●自分の好きなことをして給料がもらえるのは幸せだということ［滋賀/女子/大学］
●毎日働いても、収入が割に合わないことなど［北海道/男子/就職］
●接客業をしていて、お客さんの笑顔を見るのが、うれしいと言っていた［佐賀/男子/短大］
●大変だけど仕事だと思えば、そんなに苦ではない［岩手/女子/就職］
●どんなに体調がすぐれないときでも働かなければならない［北海道/女子/短大］

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県/性別/希望進路］

保護者 66%が「仕事の内容、楽しさ、大変さを話す」と回答



●子どもに話している内容【保護者】

●研究、実験の難しさや、自分の携わった商品が、世の中に出た時のよろこび［静岡/母親/女子］
●社会に出たら理不尽なことがある、バイトしているが考え方が甘い！［東京/母親/女子］
●会社でのできごとやニュースなどでとりあげられる社会での風潮が実際に社内でも起こっていることなど［神奈川/母親/男子］
●学校と違い、努力が必ずしも報われない［佐賀/父親/女子］
●失敗して大変なこともあるけど、笑い話にしたり、相談に乗ってもらうこともある。成功してうれしかったことも話す［富山/母親/男子］
●自分の場合は仕事を選べなかったので、自分のやりたいことをやるために努力してほしい［東京/母親/女子］
●好きな仕事ばかりではないが、小さなことでも一生懸命に取り組むことが大事［富山/母親/男子］
●女性の場合、結婚・出産などで退職することが多く、再就職できるような技術や資格が大事［静岡/母親/女子］
●この年齢になって昔からの夢だった職に就くこともできるので、夢はあきらめないでほしいと言っている［佐賀/母親/女子］
●多くの仲間を作ること、コミュニケーションの大切さ［静岡/父親/男子］

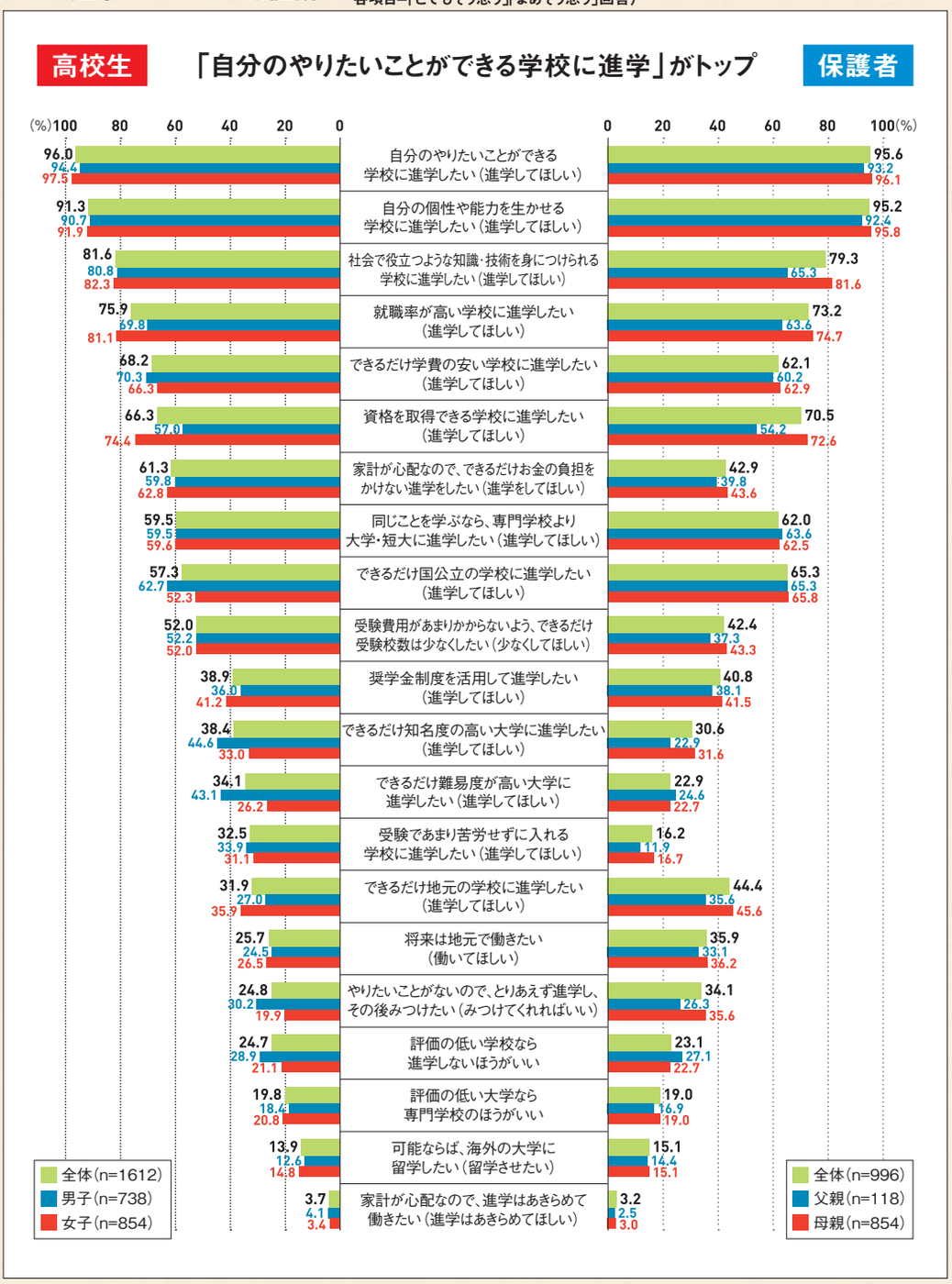
※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県/続柄/子ども性別］

Ⅱ 進学・職業に関する考え

08 進学についてどんな価値観をもっているか

▲親子とも「やりたいことができる学校に」

図12 進学についての価値観　（高校生：進学希望者・保護者：子どもを進学させたい希望者／各項目=「とてもそう思う」「まあそう思う」回答）



「地元進学・就職」志向は高校生よりも保護者が強い

進学希望の高校生に、進学に関する価値観21項目について質問した（図12）。「とてもそう思う」「まあそう思う」合計値が最も多かったのは、「自分のやりたいことができる学校に進学したい」96%。「自分の個性や能力を生かせる学校に進学したい」91%、「社会で役立つような知識・技術を身につけられる学校に進学したい」82%が上位。

また、子どもの進学を希望する保護者も、高校生と同様に「自分のやりたいことができる学校に進学してほしい」「自分の個性や能力を生かせる学校に進学してほしい」が9割を超えた。高校生で上位の項目は保護者でも順位は入れ替わるが上位に挙がった。

「できるだけ地元の学校に進学」「将来は地元で働く」は高校生よりも保護者のスコアが高く、地元志向は保護者のほうが強いかもしれない。

09

どんな職業に就きたいか、就いてほしいか

▲親子ともに1位は「公務員」

図13 将来就きたい職業の有無（高校生／単一回答）

高校生　「将来就きたい職業がある」は70%に増加

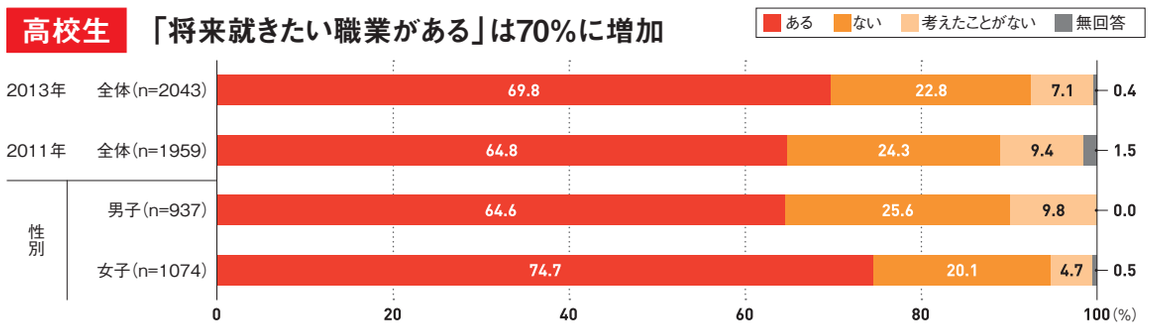


図14 将来就きたい職業（高校生：図13=就きたい職業が「ある」回答者／単一回答）

高校生　1位「公務員」、2位「教師」、3位「看護師」

全体（n=1425）

2013年順位	2011年順位	職業	2013年%
1	(1)	公務員	8.6
2	(3)	教師	7.6
3	(4)	看護師	7.2
4	(2)	保育士・幼稚園教諭	5.0
5	(5)	技術者・研究者	4.7
6	(23)	建築設計士	3.9
7	(6)	医師・歯科医師・獣医	3.8
8	(13)	薬剤師	2.7
9	(10)	事務	2.6
10	(6)	俳優・タレント・ミュージシャン・声優	2.5
11	(11)	理学療法士・作業療法士	2.4
12	(9)	製造・加工・組立	2.2
12	(8)	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	2.2
12	(20)	トリマー・動物関連	2.2
15	(13)	ゲーム関係	2.0
15	(23)	スポーツトレーナー・インストラクター	2.0
17	*	音楽家・画家・芸術関連	1.9
17	(12)	社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	1.9
19	(32)	客室乗務員・空港職員	1.8
19	(23)	ファッションデザイナー・スタイリスト・アパレル関連	1.8

※「*」: 該当カテゴリーなし　※「製造・加工・組立」は2011年では「製造・加工・組立などのものづくり」　※「客室乗務員・空港職員」は2011年では「フライトアテンダント・グランドスタッフ」

男子（n= 605）

2013年順位	2011年順位	職業	2013年%
1	(1)	公務員	12.4
2	(3)	教師	9.4
3	(2)	技術者・研究者	7.9
4	(12)	建築設計士	6.1
5	(4)	製造・加工・組立	4.3
6	(7)	医師・歯科医師・獣医	3.8
6	(6)	ゲーム関係	3.8
8	(14)	薬剤師	3.3
9	(5)	俳優・タレント・ミュージシャン・声優	3.0
10	(9)	理学療法士・作業療法士	2.6
10	(12)	スポーツトレーナー・インストラクター	2.6

女子（n= 802）

2013年順位	2011年順位	職業	2013年%
1	(1)	看護師	11.6
2	(2)	保育士・幼稚園教諭	7.9
3	(4)	教師	6.4
4	(3)	公務員	5.6
5	(5)	事務	3.9
6	(6)	医師・歯科医師・獣医	3.6
7	(16)	トリマー・動物関連	3.1
8	*	音楽家・画家・芸術関連	3.0
9	(19)	客室乗務員・空港職員	2.6

●その職業に就きたい理由【高校生】

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県/性別/希望進路］

■公務員
- ●地域のために働くのが自分のやりたいことだから［滋賀/男子/大学］
- ●経済的に安定していて休みがきちんとある［岩手/女子/就職］

■教師
- ●いじめ、体罰などの学校問題をなくしたいから［滋賀/女子/大学］
- ●体育教師になって岩手のスポーツに貢献したいから［岩手/男子/大学］

■看護師
- ●やりがいがあり、なおかつ人の役に立てる仕事だから［富山/女子/大学］
- ●看護体験を通して、人とかかわりがもてる職業がいいと思ったから［佐賀/女子/大学］

■保育士・幼稚園教諭
- ●子どもが好き。ピアノを習っていたのを生かしたい［滋賀/女子/短大］

「教師」「看護師」…資格を生かした専門職が人気

高校生に将来就きたい職業があるか質問すると、70%が「ある」（図13）。具体的な職業は「公務員」が最も多く、「教師」「看護師」「保育士・幼稚園教諭」が続く（図14）。男女とも「公務員」「教師」が上位5位以内に挙がった。男子はこのほか「技術者・研究者」「建築設計士」「製造・加工・組立」、女子は「看護師」「保育士・幼稚園教諭」が希望職業の上位である。

目指す人やあこがれている人の有無を聞くと、27%が「いる」（図15）。そのうち、3割が目指す人に保護者を挙げており、「父親」が18%、「母親」が12%（図16）。

一方、保護者は子どもに就いてほしい職業があるか質問すると、「ある」は23%で11年からは横ばい傾向（図17）。「子どもが希望する職業なら何でもよい」が68%。「ある」という保護者が就いてほしい職業は「公務員」が突出（図18）。以下「看護師」「教師」「理学療法士・作業療法士」「医師・歯科医師・獣医」など教師や医療系職種が上位を占める。

図16 目指している人（高校生：図15=「いる」回答者／単一回答）

高校生 トップは「有名人」、次いで「父親」

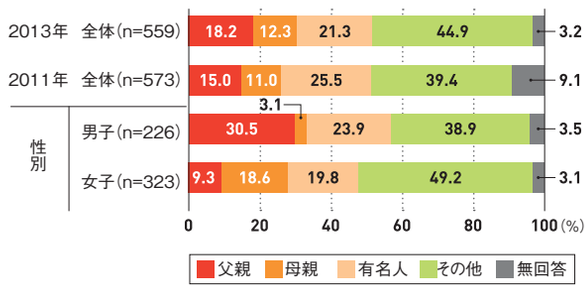
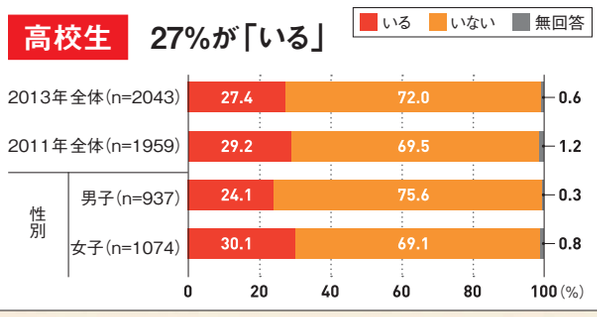


図15 目指している人、あこがれている人の有無（高校生／単一回答）

高校生 27%が「いる」



●その人を目指す理由【高校生】

■父親

●家を養ってくれている、その姿にあこがれがある［香川/男子/大学］
●父の仕事を継ごうと考えているから［神奈川/男子/就職］
●仕事ぶりも人間性もすごく尊敬している［佐賀/男子/専門学校］
●働いて家庭サービスもして良き父親［神奈川/男子/大学］

■母親

●忙しくても家のこと、子どものことを考えてくれている［香川/女子/その他］
●仕事に一生懸命で家事もこなし、家族のことをしっかり考えてくれるから［富山/女子/大学］
●よく働いていて、男性と同じくらい頑張っている［静岡/女子/大学］

※有名人「宮崎駿」「秋元康」「池上彰」、その他：声優、スポーツ選手、ミュージシャン、タレントなど
※その他「兄」「姉」など兄弟・親戚、小学校～高校の「先生」「先輩」、就きたい職業の人物など

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県/性別/希望進路］

図17 子どもに将来就いてほしい職業の有無（保護者／単一回答）

保護者 68%が「子どもが希望する職業なら何でもよい」

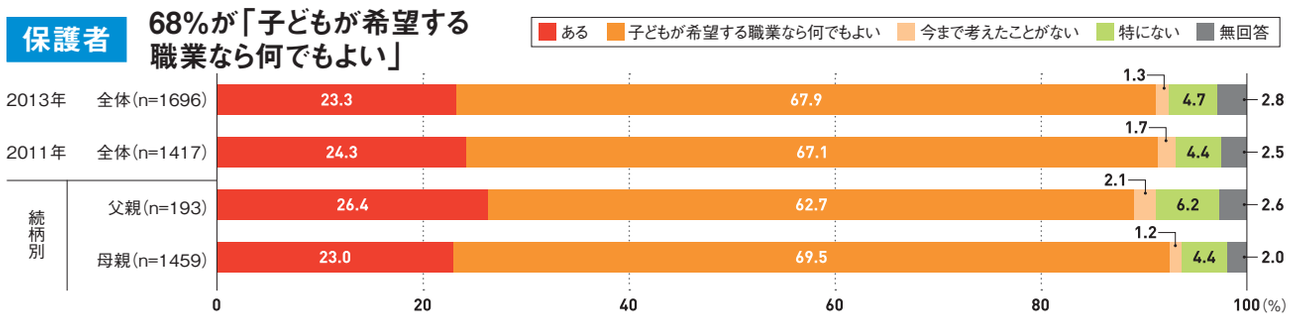


図18 子どもに将来就いてほしい職業（保護者：図17=就いてほしい職業が「ある」回答者／単一回答）

保護者 1位「公務員」、2位「看護師」、3位「教師」

全体（n=396）

2013年順位	2011年順位	職業	2013年%
1	(1)	公務員	27.5
2	(2)	看護師	14.9
3	(4)	教師	5.3
4	(11)	理学療法士・作業療法士	5.1
5	(3)	医師・歯科医師・獣医	4.3
6	(15)	建築設計士	4.0
7	(9)	技術者・研究者	3.3
8	(21)	管理栄養士・栄養士	2.8
9	(5)	保育士・幼稚園教諭	2.5
9	(9)	薬剤師	2.5

子ども性別：男子（n=177）

2013年順位	2011年順位	職業	2013年%
1	(1)	公務員	35.0
2	(8)	理学療法士・作業療法士	7.9
3	(2)	教師	7.3
4	(12)	建築設計士	6.2
5	(5)	医師・歯科医師・獣医	5.1
5	(3)	技術者・研究者	5.1
7	(5)	会社員	3.4
8	(7)	薬剤師	2.8
8	(12)	農業	2.8

子ども性別：女子（n=212）

2013年順位	211年順位	職業	2013年%
1	(1)	看護師	25.5
2	(2)	公務員	20.8
3	(17)	管理栄養士・栄養士	5.2
4	(3)	保育士・幼稚園教諭	4.2
5	(7)	教師	3.8
5	(4)	医師・歯科医師・獣医	3.8
5	(5)	事務	3.8
8	(9)	理学療法士・作業療法士	2.8
9	(17)	建築設計士	2.4
9	(7)	薬剤師	2.4

●その職業に就いてほしい理由【保護者】

■公務員

●安定している、使命感のある一生の仕事［富山/母親/男子］
●地元では働く場所がなく、公務員しかない［香川/母親/男子］

■看護師

●どこに行っても就職できる。やりがいもある［滋賀/母親/女子］
●結婚・出産等などに影響なく再復帰可能だから［北海道/母親/女子］

■教師

●社会に必要とされている職業。安定している［富山/母親/女子］
●子どもの希望でもあるし、それが本人に合っている［香川/母親/男子］

■理学療法士・作業療法士

●高齢化が進み、必要性が高い職業の一つ［岩手/母親/男子］
●技術が身につき、卒業後の就職率が良い［神奈川/母親/女子］

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県/続柄/子ども性別］

10 進路を考えるとき、どんな気持ちになるか

▲7割の高校生が「不安」

図19 進路を考えるときの気持ち（高校生／単一回答）

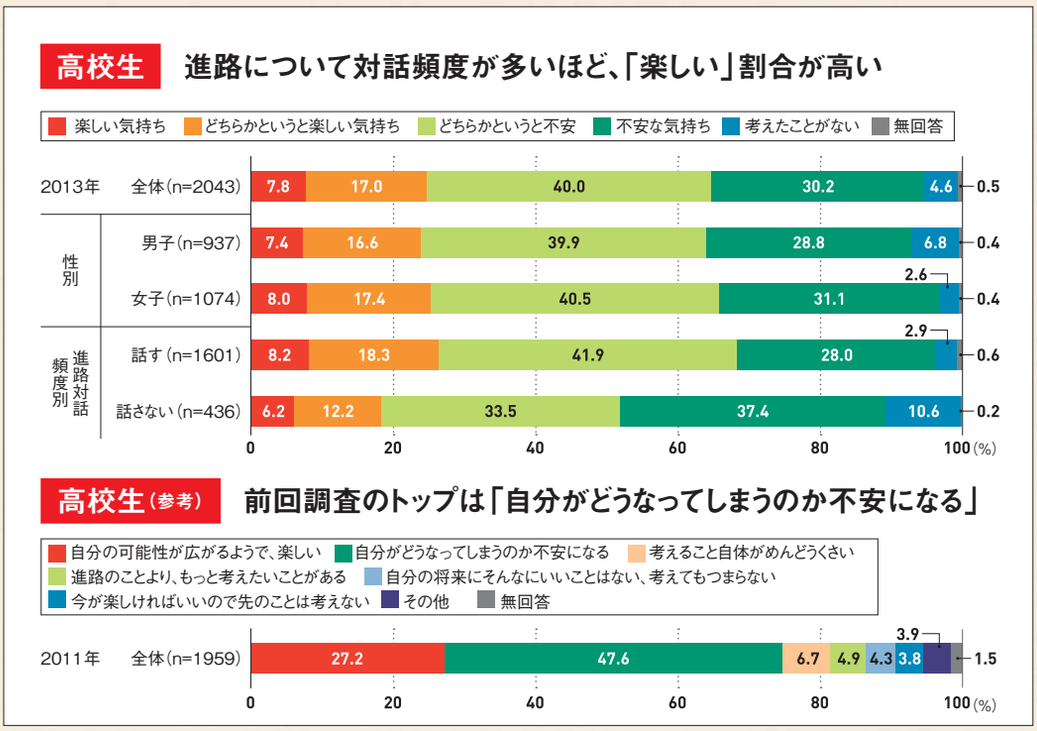
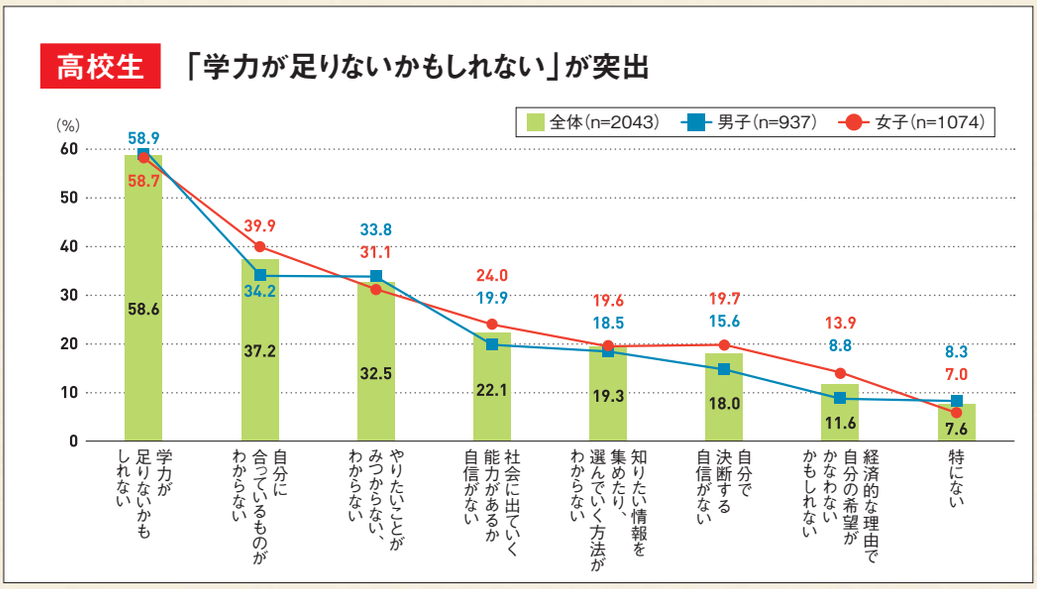


図20 進路選択についての気がかり（高校生／複数回答）



「学力不安」の次は「自分に合うものがわからない」

高校生に進路を考えるとき、どんな気持ちになるか質問したところ、「楽しい気持ち」「どちらかというと楽しい気持ち」合わせて25％が「楽しい」と回答（図19）。

一方、「どちらかというと不安」「不安な気持ち」を合わせた「不安」は70％で「楽しい」を大きく上回った。性別では大きな差は見られないが、進路対話頻度別では保護者と「話す」層のほうが「楽しい」の割合が高く、自身の進路についてポジティブにとらえる傾向がみられる。

さらに、進路選択についての気がかりをすべて選んでもらったところ、「学力が足りないかもしれない」が突出し59％（図20）。ついで「自分に合っているものがわからない」「やりたいことがみつからない、わからない」と、適性や目標がわからないという回答が続く。

11

将来働くことに気がかりはあるか

高校生は前回調査より増加。4分の3が「ある」

図21 高校生が将来働くことについての気がかり（高校生・保護者／単一回答）

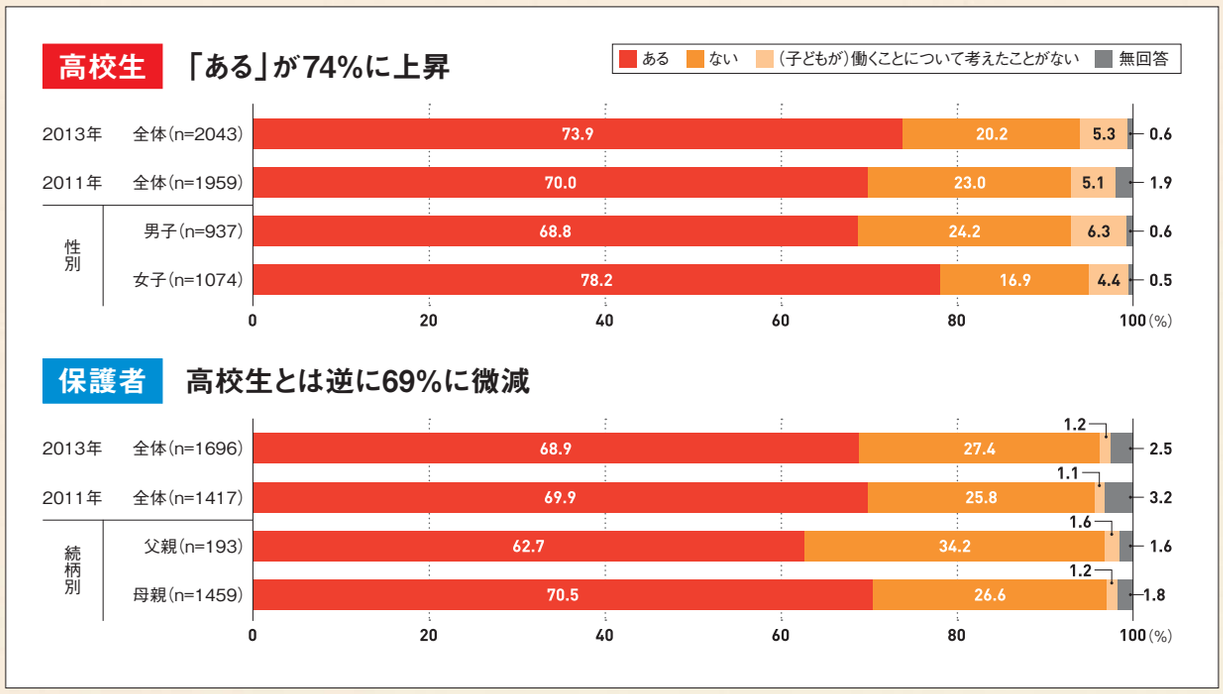
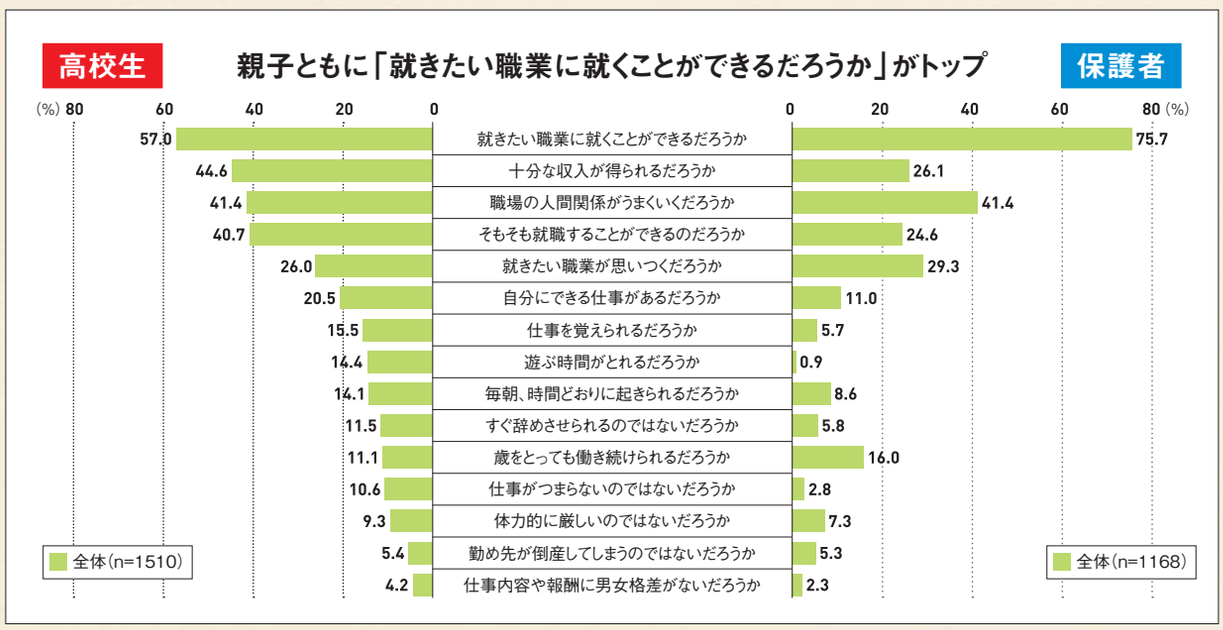


図22 働くことについての気がかりの内容（高校生・保護者：図23=気がかりが「ある」回答者／5つまで回答）



就きたい職業が思いつくかが気がかりな保護者

高校生が将来働くことについて気がかりがあるか質問した（図21）。高校生で気がかりが「ある」は11年より4ポイント増加し74%。女子は男子よりも「ある」が多く、8割近くを占める結果となった。

一方、子どもが働くことについて気がかりが「ある」保護者の割合は11年から横ばい傾向で69%。母親は7割を超え、父親に比べ多い。

高校生・保護者それぞれに具体的な気がかりを選んでもらったところ、いずれもトップは「就きたい職業に就くことができるだろうか」（図22）。特に保護者は4分の3を超える高い回答率となった。保護者の2位は「職場の人間関係がうまくいくだろうか」、3位は、高校生では5位の「就きたい職業が思いつくだろうか」。目の前のわが子について、能力にも進路意識にも保護者が不安を感じている様子がうかがえる。一方、高校生の2位は「十分な収入が得られるだろうか」、3位は「職場の人間関係」。

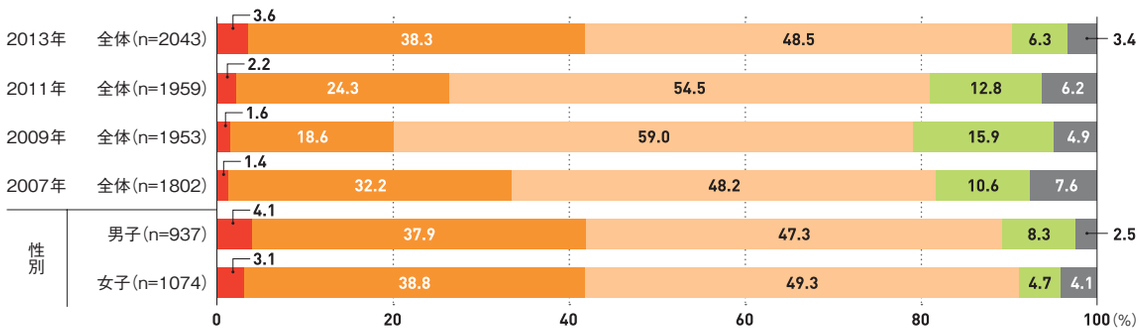
12

これからの社会は好ましいと思うか

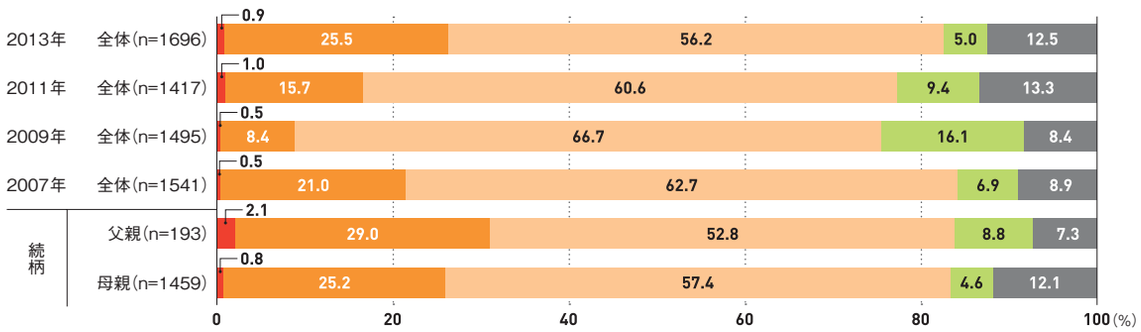
「好ましい」が前回調査より大幅に増加

図23 未来社会についての認識（高校生・保護者／単一回答）

高校生　42%が「好ましい社会だ」と回答



保護者　26%に増加するも、先行き不安で慎重なコメントも



●これからの社会についてそう思う理由【高校生】

■とても好ましい

●オリンピックで景気が良くなると思うから［佐賀/男子/大学］

●グローバル化によりさまざまな人との交流がある［香川/男子/大学］

■まあまあ好ましい

●アベノミクスの影響があると思うから［静岡/男子/大学］

●理不尽な点は多いが、目に余るほどでもないため［神奈川/男子/大学］

■あまり好ましくない

●何でも電子化して便利になる社会が良いのか疑問［富山/女子/大学］

●現在、国が抱えている負債によって、関係のない自分たちが苦労するのは納得いかない［神奈川/男子/その他］

■非常に好ましくない

●若者への負担を強いてくる社会になるだろうから［北海道/男子/大学］

●女性の地位はいまだ低いまま、経済もあまり良いとは言えず、世の中の空気も悪くなっているから［神奈川/女子/大学］

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県/性別/希望進路］

●これからの社会についてそう思う理由【保護者】

■とても好ましい

●目標に向かって頑張ってほしいから、そう思いたい［香川/母親/女子］

●今の大人が好ましい社会にしなくてはいけない［静岡/母親/男子］

■まあまあ好ましい

●親世代が就職したころに比べ、いろいろな意味で社会は柔軟に対応してくれていると思う［静岡/母親/男子］　●選り好みしなければ、どんなことででも収入は得られる。こんな安全な国はない［滋賀/父親/女子］

■あまり好ましくない

●これからの社会が全然読めない。今の社会自体がそう［富山/母親/男子］

●アベノミクスと言われるが、経済的に楽とは思えない［佐賀/母親/女子］

●税金、年金など問題が多すぎて生きにくい世の中［佐賀/母親/女子］

■非常に好ましくない

●膨大な借金を抱える国で、就職もままならず、年をとるごとに不安な社会を生きることになる［静岡/母親/男子］

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は［都道府県/続柄/子ども性別］

「アベノミクス」「東京五輪」がキーワード

これからの社会は高校生にとって好ましいと思うか、質問した（図23）。高校生・保護者とも、「とても好ましい」「まあまあ好ましい」の割合は09年以降増加が続いている。13年は高校生が42%、保護者は26%とリーマンショック前の07年の水準を超え、これからの社会をポジティブにとらえる傾向が強まっている。

ただし、「あまり好ましくない」「非常に好ましくない」の割合は、高校生で55%、保護者では61%と依然過半数を占め、厳しい認識のほうが多い。

好ましいと思う理由を尋ねると、高校生では「アベノミクス」「東京オリンピック開催」という言葉が目立ち、それらを楽観的にとらえる人が多かった。一方、保護者では少子高齢化や就職難など、若い世代への負担感を危惧しながらも「好ましい社会であってほしい」という願いや、「自分たちの世代よりも性差が少なく、チャンスが与えられている」ことなどが好ましい理由として挙げられている。

13

子どもへの進路のアドバイスは困難か

▲7割が「難しい」と認識

図24 子どもの進路選択についてのアドバイスの困難（保護者／単一回答）

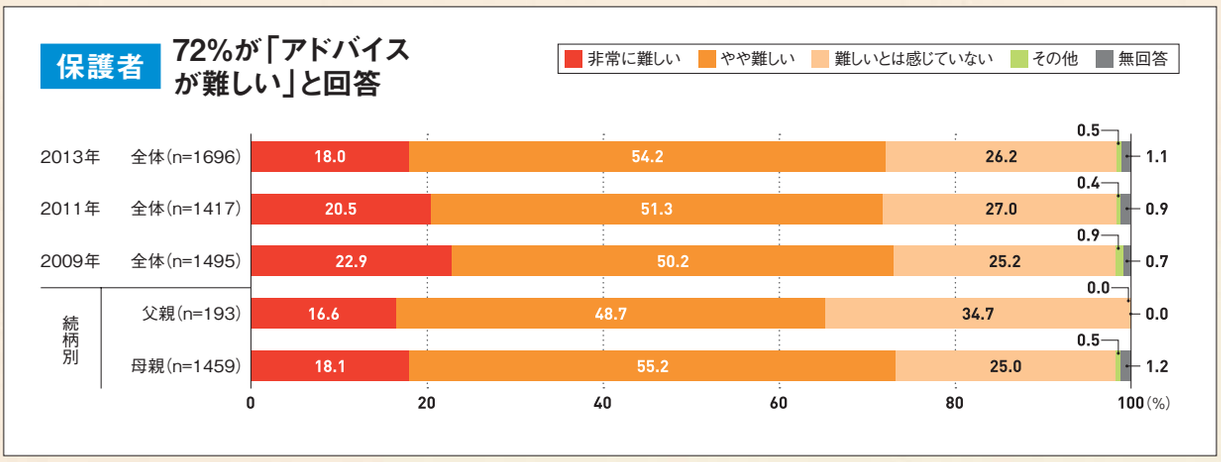
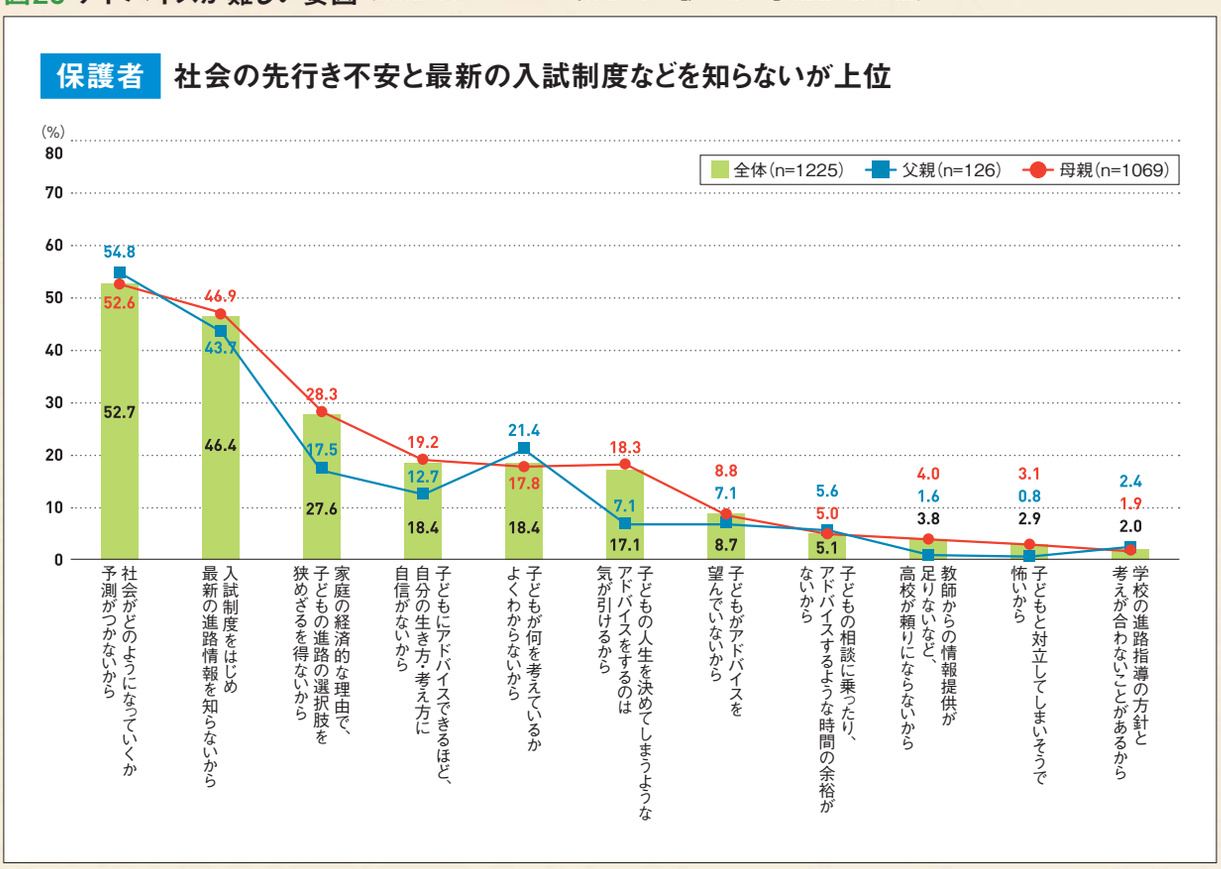


図25 アドバイスが難しい要因（保護者：図24=アドバイスが「非常に難しい」「やや難しい」回答者／複数回答）



子どもとの距離感でも、難しい要因が異なってくる

14ページで保護者に子どもの進路選択についてアドバイス状況を尋ねたが、その難しさの程度も質問したところ、18%が「非常に難しい」（図24）。「やや難しい」を合わせると約7割と、09年以降同様の傾向である。

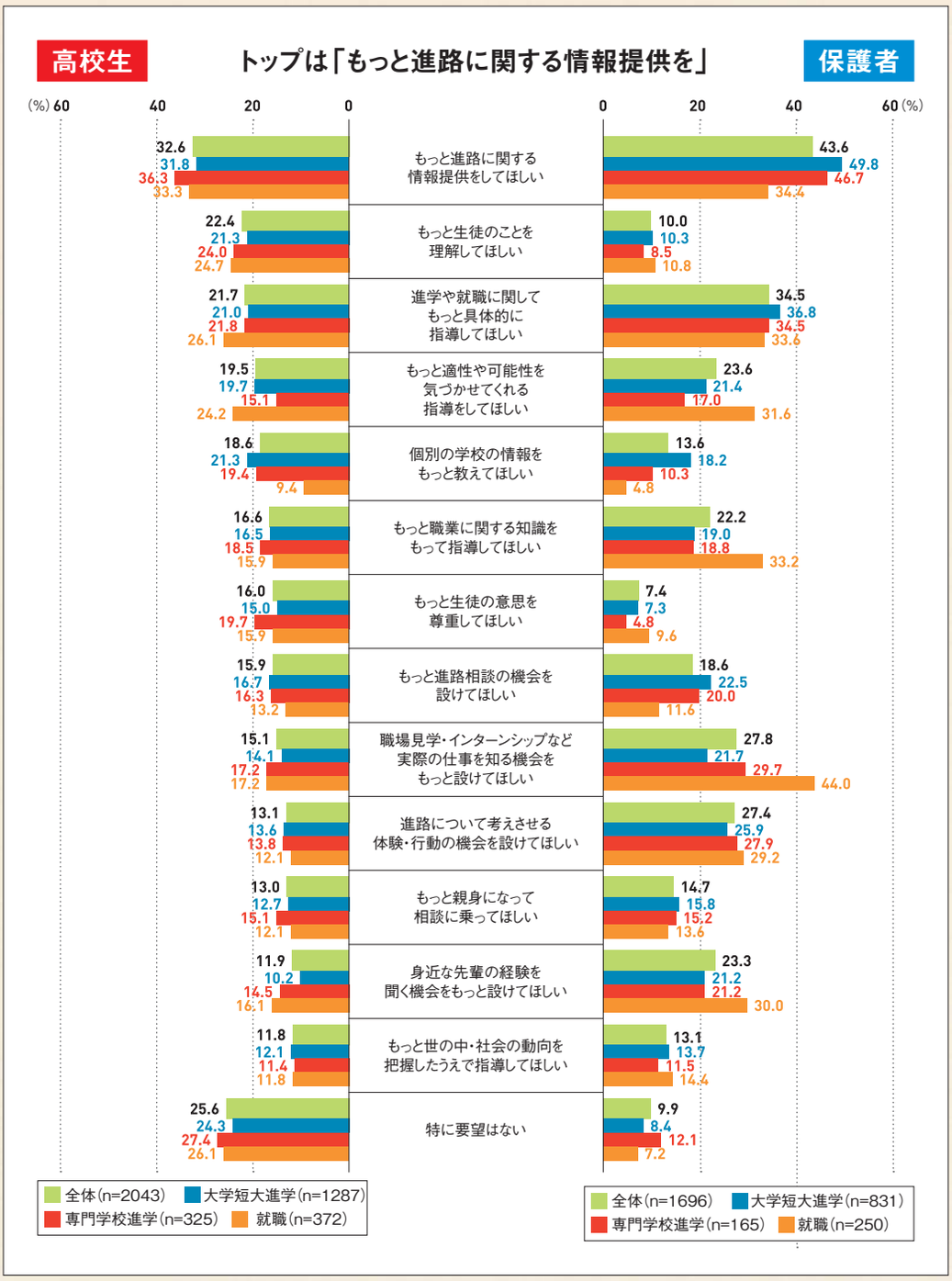
アドバイスが難しいと回答した保護者に理由をすべて選んでもらったところ、「社会がどのようになっていくか予測がつかないから」が最多の53%（図25）。2位は「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから」。これは父親より母親のほうが高いが、母親のほうが子どもの相談に乗っていることの表れであるようにも思われる。また同様に、「子どもにアドバイスできるほど、自分の生き方・考え方に自信がないから」「子どもの人生を決めてしまうようなアドバイスをするのは気が引けるから」も母親のほうが高い。父親のほうが高いのは、「子どもが何を考えているかよくわからないから」などで、子どもとの距離感にそもそも問題のあるケースもありそうだ。

Ⅳ 保護者の動きと高校・教員への要望

14 高校の進路指導へどんなことを要望するか

▲親子とも「進路情報の提供」が1位

図26 高校の進路指導への要望（高校生・保護者／複数回答）



「体験」「行動」の機会を保護者は要望

高校の進路指導についての要望を高校生・保護者それぞれにすべて選んでもらった（図26）。高校生・保護者とも回答トップは「進路に関する情報提供をしてほしい」。高校生は次いで「生徒のことを理解してほしい」「進学や就職に関して具体的に指導してほしい」「適性や可能性を気づかせてくれる指導をしてほしい」が多く、画一的な指導ではなく、個々に合わせた指導をしてほしいという要望が上位に挙がった。

一方、保護者においては「進学や就職に関して具体的に指導して～」「職場見学・インターンシップなど実際の仕事を知る機会を～」「進路について考えさせる体験・行動の機会を～」が続き、いずれも3割前後と高校生に比べスコアが高い。具体的な体験・行動を伴う進路指導を要望する保護者は多いようである。

フリーコメント 保護者から高校への要望

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は[都道府県/続柄/子ども性別]

■ グローバル人材の育成について高校に要望すること【保護者】

●もっと多国籍にふれあう授業、活動が増えたらいい[富山/母親/女子]
●留学・ホームステイ等、経験のきっかけを作ってほしい[静岡/母親/女子]
●英語を習っても会話ができない。日常会話ができるようになる英語の指導をしてほしい[佐賀/母親/女子]
●英語に限らず外国語を話せるようにする対策をもっと実践してほしい[東京/母親/女子]
●外国語などの習得も大事だと思うが、自国の言語、文化、歴史などを、もっと勉強したほうが良いのでは[静岡/母親/男子]
●相手側の文化的背景や価値観を正しく理解するための見方や考え方[神奈川/父親/男子]
●「グローバル」の意味、皆理解していると思ってますか ?まず正しく理解させてください[東京/母親/男子]
●日本語でも良いので、伝える力と理解する力が欲しい[静岡/母親/女子]
●国内(県内)の海外の人と接する機会を増やしてほしい。グローバル経営の会社を訪問させてほしい[佐賀/母親/男子]
●海外で働いている先輩を高校に招いて話を聞かせてほしい。実体験など、生の声が子どもに響くと思います[富山/母親/男子]
●どうしてグローバル社会に通用しなければいけないのかを教える[佐賀/父親/女子]
●外国人教師の積極的な採用[富山/父親/男子]
●全然新聞を読まないので、世界情報・日本経済などどんどん話してほしい[香川/母親/女子]
●個人の性格もあるので、皆が皆、グローバル社会で通用するとは思えない。内気な性格な子どもはどうすればよいのか？[富山/母親/男子]

■ キャリア教育に対する意見・要望【保護者】

●興味をもった企業、会社への職業体験、就業体験の機会を作れるカリキュラム作りを希望[東京/母親/男子]
●キャリア教育は大切であり、良いことだと思うが、まずはキャリアに耐えれるかの適性検査が先であると思う。能力がない人にとっては苦痛だけしか残らない[佐賀/母親/男子]
●学校の先生は学校のことしかわからないので、外部の人なども必要だと思う[佐賀/父親/女子]
●面接指導は、先生ではなく、企業の人事担当者などに行ってもらうほうがよいのではないか？[静岡/父親/男子]
●高校になってから急にキャリア教育をしようとしても無理。高校入学時にはすでに具体的な将来の希望・ビジョンをもっているべきだと思う[東京/母親/女子]
●勉強と部活で1～2年はいっぱいいっぱい。キャリア教育という美しい言葉で、これ以上仕事をふやしてはかわいそう[静岡/母親/女子]
●就職までのキャリア教育というのではなく、一生を通してのキャリアという時間軸の視点が欲しい[岩手/父親/女子]
●ワークライフバランスに応じたキャリアアップができるシステムもあることを伝えてほしい。特に女性は結婚・出産・子育てで仕事をすぐ辞める傾向にあるので目標をもって続ける方法を考えられるようにしてほしい[香川/母親/女子]
●学ぶことは一生なので、学校にとらわれず、いつまでもキャリア教育を受けることも選ぶこともできることを伝えてほしい[神奈川/母親/男子]
●今通っている学校で、どのようにキャリア教育をしていただいているのかがわからない[佐賀/母親/男子]

■ 高校の進路指導に対する要望【保護者】

●どの進路であれ、子どもの魅力・個性などを最大限に引き出し、伸ばしてほしい[北海道/母親/男子]
●子どもに否定的な言動はやめてほしい。相談しやすい先生になってほしい[富山/母親/女子]
●就職ばかり進めず、進学もできれば、どこに行けるか教えてほしい[富山/母親/男子]
●過去の例や学校のノルマ、目標達成を目的とした指導はやめてほしい[佐賀/父親/男子]
●親のほうが不安。どうして良いかわからないため、子どもが自分で進路を詳しく調べる時間を設けてほしい[香川/母親/女子]
●進路指導のスケジュールが3年間の中でどのように予定されているかわからない。相談のタイミングがわからない[東京/母親/男子]

■ 高校・先生に対する意見・要望【保護者】

●SNSでの投稿で企業・店舗に多大な迷惑をかけている若者がいる。ネット社会の怖さについて大きくとらえてほしい[富山/母親/男子]
●授業のプロとして「この先生がいるから…学校に行きたい。」と生徒が思う授業をする先生がたくさんいてほしい[東京/母親/男子]
●学校でどのようなことをしているのか教えてほしい。家でも、何かできることがあるのならば教えてほしい[静岡/母親/女子]
●進学・就職のことばかりが重視され、学校生活そのものの意味がうすくなっている気がする[東京/母親/女子]
●進路について早期から方向性を決めなさい、という傾向にとても疑問がある。進路について学校が干渉しすぎだと思う[香川/母親/女子]

画一的ではなく個々に合った進路指導を

高校の進路指導に対する保護者の意見では、「進学校だから進学を」といった画一的な指導ではなく、高校生一人ひとりの希望や適性に合わせた指導を要望する声が多くみられた。また、高校生の進路・将来に不安を感じている保護者は多く、「家庭でできることがあれば教えてほしい」と、高校からの具体的アドバイスや情報提供を求める声もあった。

グローバル人材には文化・価値観の理解も必要

グローバル社会に通用する人材を育てるために高校に要望することを保護者に尋ねたところ、意見として多く挙げられたのは「英語教育」に関するもので、「会話ができる」「使える英語」のための実践的授業・指導に対する要望が多い。また、語学だけではなく、相手の文化や価値観についても理解が深まるような授業や体験の機会創出(留学・ホームステイなど)を望む声がある。その一方で、自国の言語・文化についても知識を深めるべきとの意見もみられた。

15

キャリア教育をどう思うか

認知率は4割どまり。推進支持は8割

図27『キャリア教育』という言葉を聞いたことがある（保護者／単一回答）

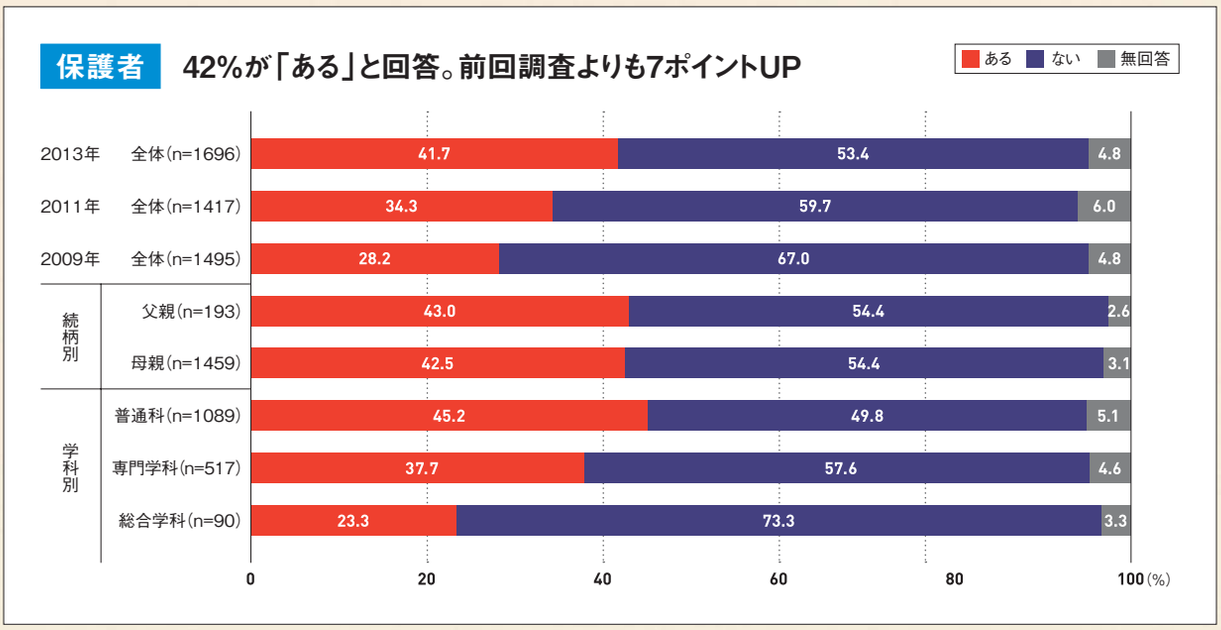
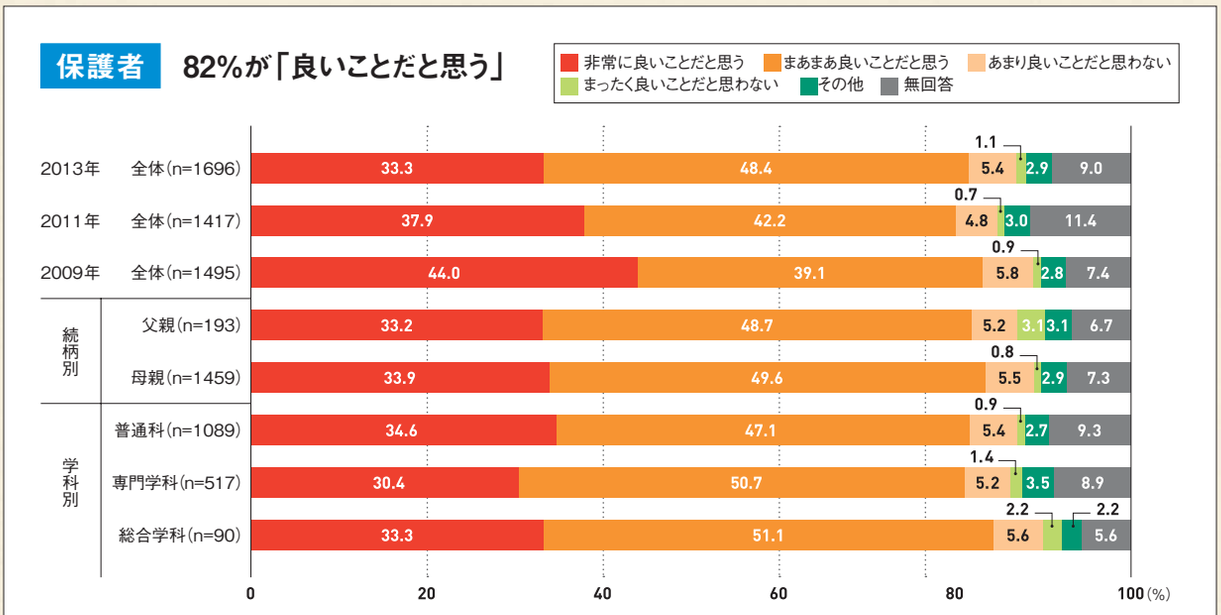


図28『キャリア教育』が推進されていくことについての考え（保護者／単一回答）



※『キャリア教育』とは「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」という定義を提示した

言葉の認知率は増加したが内容の周知には課題も

『キャリア教育』という言葉の認知率は09年以降増加傾向で、今回は42％（図27）。続柄別にみると父親と母親の認知率は同程度である。学科別では、普通科が最も高かった。

次に、『キャリア教育』の定義を提示したうえで、キャリア教育の推進についての印象を尋ねた（図28）。「非常に良いことだと思う」は33％、「まあまあ良いことだと思う」を合わせると「良い」は82％。「非常に良いことだと思う」がこのところ減少傾向だ。

『キャリア教育』への意見をみると（25Pのフリーコメント参照）、「職業体験」など企業と連携した指導や、高校卒業後だけではなくその後の人生設計も視野に入れた指導への要望などがみられた。

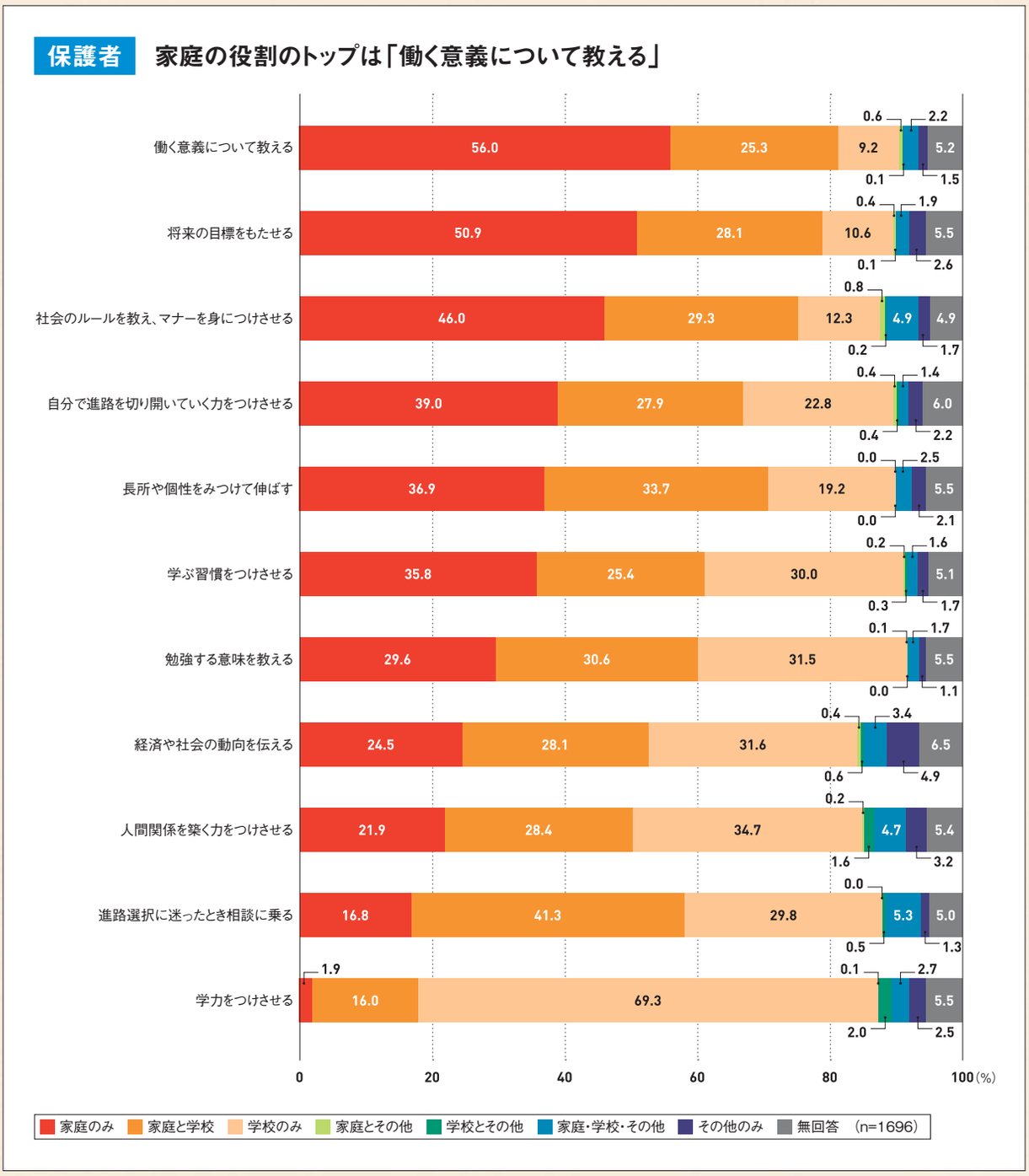
また、『キャリア教育』という言葉の認知が進む一方で「『キャリア教育』としてどのような指導をしているのかわからない」と、高校での実施内容を把握していない保護者も少なからずいるようだ。

16

家庭と学校はどう役割を分担すべきか

▲「働く意義」と「将来の目標」は家庭で

図29 高校生に対する役割（保護者／「家庭の役割」「学校の役割」「その他の役割」回答組み合せ）



「進路の相談に乗る」のは「家庭と学校」両方の役割

高校生の教育に関する上の11項目について、それが「家庭」「学校」「その他」いずれの役割であるか選んでもらい、回答状況を分類した（図29）。

「家庭のみ」の役割が多かったのは「働く意義について教える」「将来の目標をもたせる」が5割以上を占め、次いで「社会のルールを教え、マナーを身につけさせる」。

「家庭と学校」両方の役割としては「進路選択に迷ったとき相談に乗る」が最も多く、約4割。家庭と学校が連携して高校生をサポートすべきだという思いが感じられる。以下、「長所や個性をみつけて伸ばす」「勉強する意味を教える」などが続いた。

一方、「学校のみ」の役割は「学力をつけさせる」が約7割。次いで「人間関係を築く力をつけさせる」「経済や社会の動向を伝える」「勉強する意味を教える」も3割と多く、保護者が学力・知識に留まらない指導や育成を高校に期待していることがわかる。

17

保護者は子どもの進路選択にどうかかわっているか

▲「自ら行動」が増加

図30 子どもの進路選択への保護者のかかわり（保護者：子どもを進学させたい希望者／各単一回答）

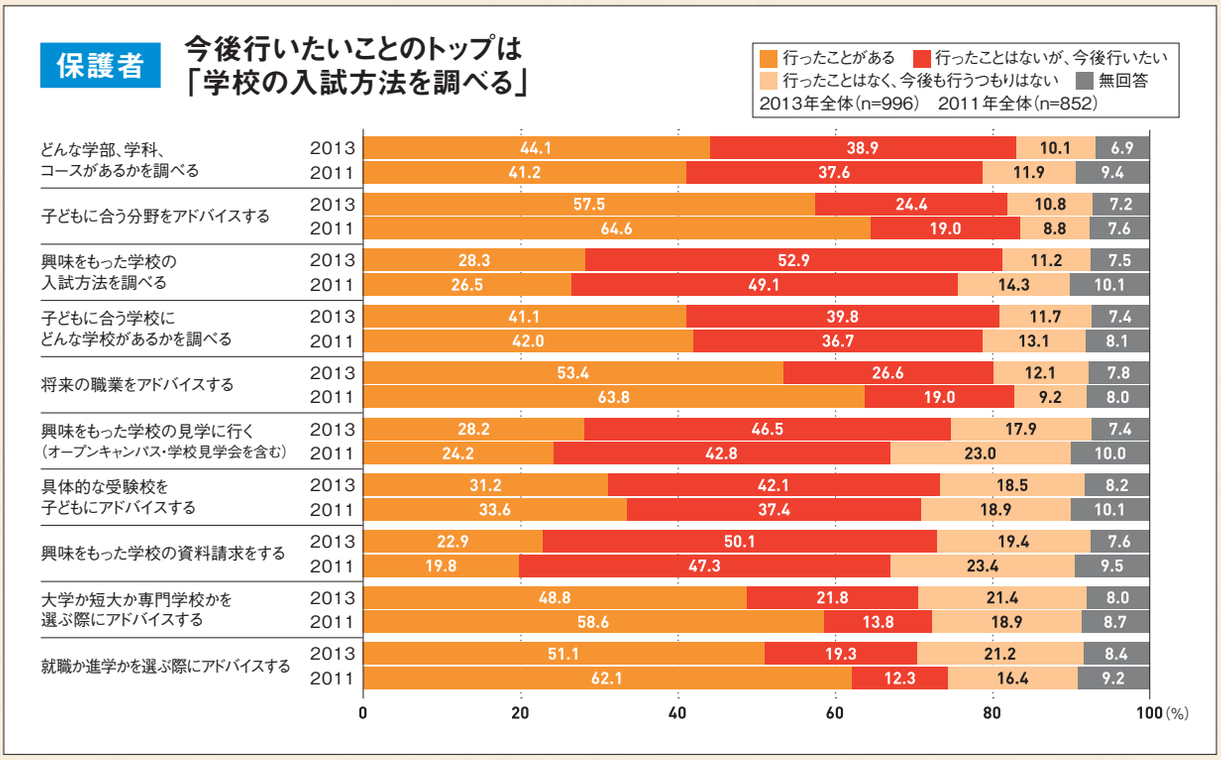
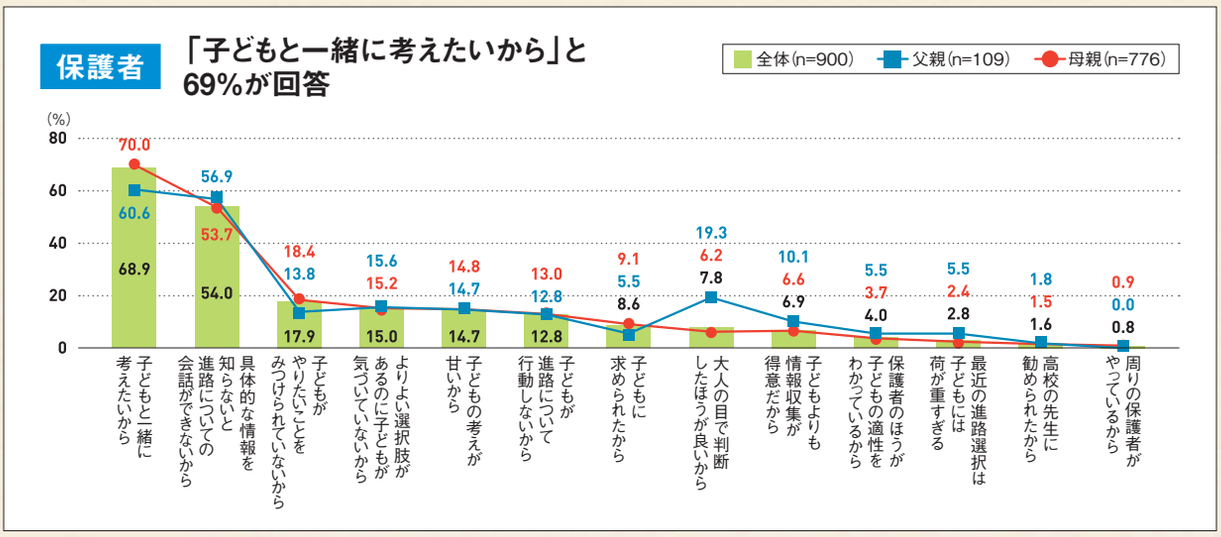


図31 保護者が進路選択行動に自らかかわる理由

（保護者：子どもを進学させたい希望者、かつ図30=いずれか「行ったことがある」「今後行いたい」回答者／複数回答）



アドバイスより保護者自身が行動する傾向

子どもの進路選択行動に関する上の10項目に保護者はどうかかわっているか尋ねた（図30）。「行ったことがある」が多い行動は、「子どもに合う分野をアドバイス」「将来の職業をアドバイス」「就職か進学かを選ぶ際にアドバイス」が5割を超える。

「行ったことはないが、今後行いたい」の上位は、興味をもった学校の「入試方法を調べる」、「資料請求をする」、「見学に行く」。アドバイスすることよりも行動していくことが、今後の保護者の行動パターンになりそうな兆候がある。最下位は「就職か進学かを選ぶ際にアドバイスする」。

子どもの進路選択に自らかかわる理由としては、「子どもと一緒に考えたい」「具体的な情報を知らないと会話ができない」が上位に挙がった（図31）。続柄別では母親のほうが「子どもと一緒に考えたい」が多い。逆に父親が母親より多い項目は、「大人の目で判断したほうが良いから」「子どもよりも情報収集が得意だから」などである。

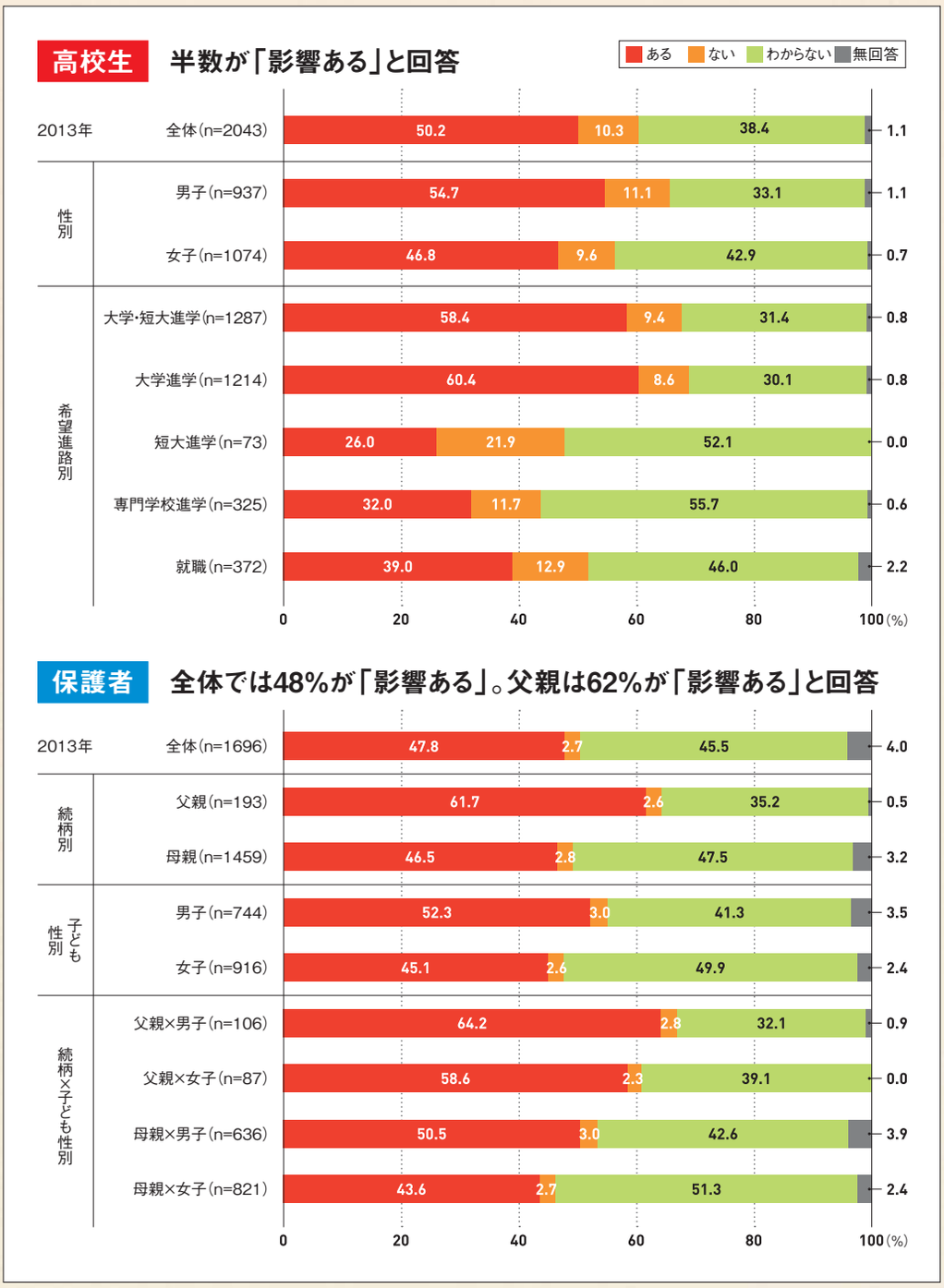
V グローバル化の影響

18

高校生の将来にグローバル化の影響はあるか

▲親子ともに半数が「影響ある」

図32 高校生の将来への社会・経済のグローバル化の影響（高校生・保護者／単一回答）



半数は「影響がある」「わからない」は4割

高校生・保護者に、自分の将来（子どもの将来）に社会・経済のグローバル化の影響があると思うかを尋ねた。高校生では50%が「ある」と回答し、「ない」の10%を大きく上回った（図32）。

性別では女子よりも男子の「ある」が多い。女子は「わからない」が43%に上った。希望進路別では大学進学希望者の「ある」が60%を超えて最多となった。以下、就職、専門学校進学、短大進学の各希望者という順でグローバル化を意識する傾向がみられた。

保護者では48%が「ある」と回答。「ない」は3%、「わからない」は46%。「ある」は母親よりも父親が高かった。続柄別・子ども性別では男子をもつ父親が最も「ある」が高い。一方、女子をもつ母親が「ある」がもっとも少なく、「わからない」は最多だった。

19

グローバル社会で通用する人材になりたいか

高校生の半数以上が「なりたい」

図33 グローバル社会で通用する人材への願望（高校生・保護者／単一回答）

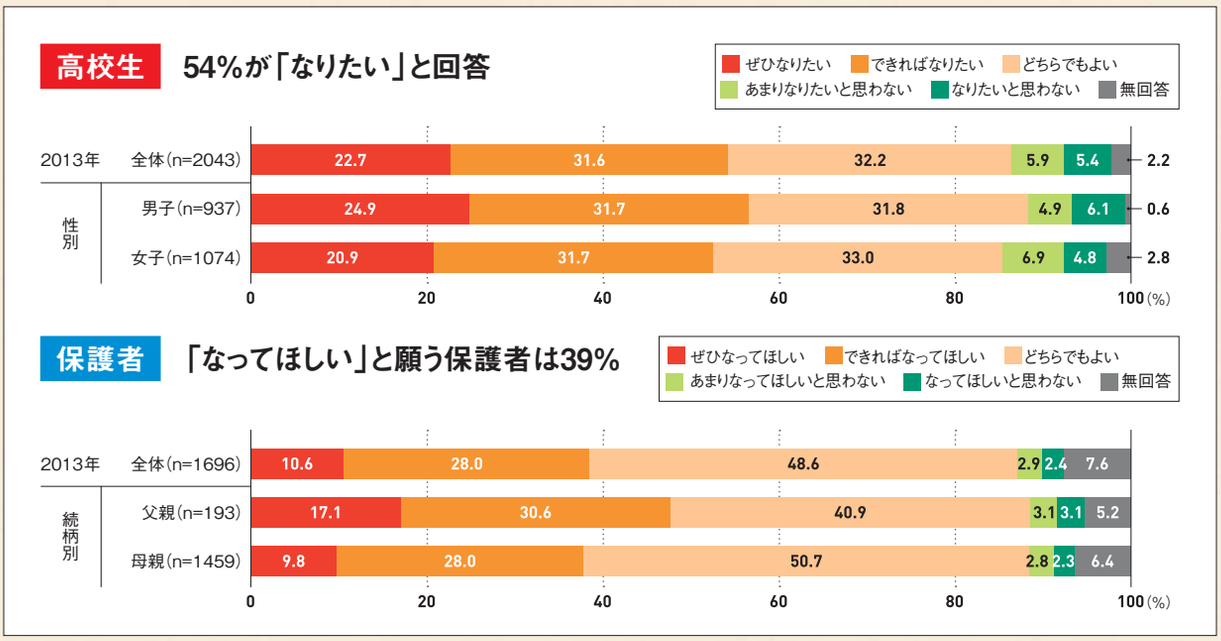
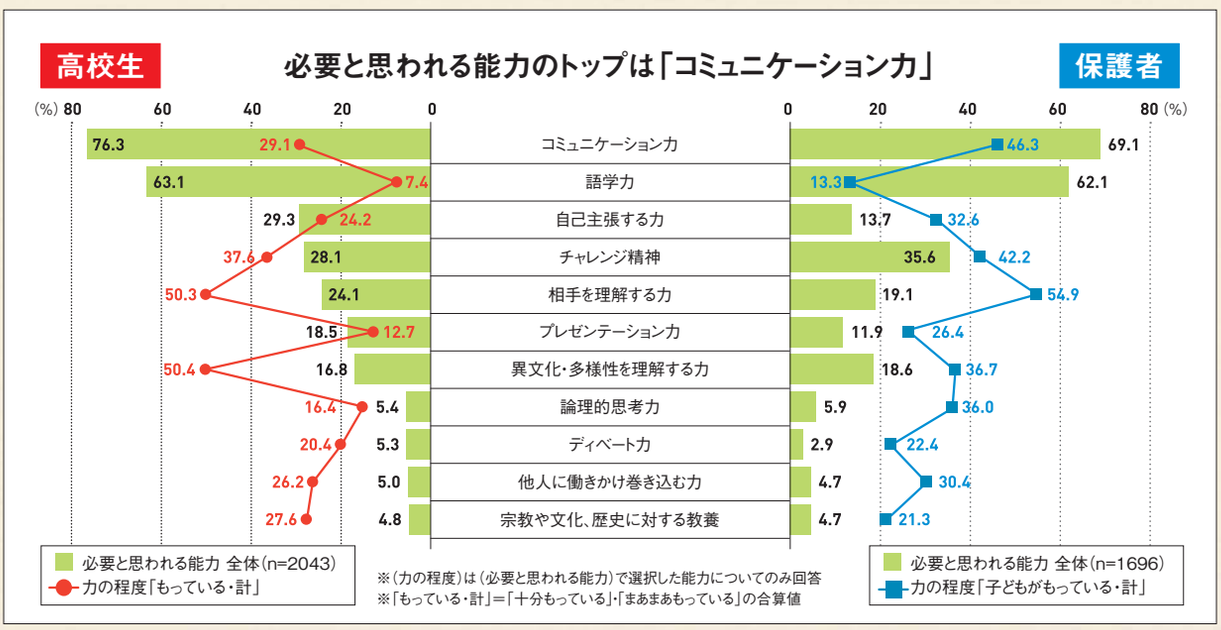


図34 グローバル社会で通用する人材に必要と思われる能力（高校生・保護者／3つまで回答）
高校生がもっている力の程度（高校生・保護者：各能力「必要」回答者／各単一回答）



必要だと思う力は「語学力」と「コミュニケーション力」

高校生にグローバル社会で通用する人材になりたいと思うかを尋ねた。高校生の23%が「ぜひなりたい」と回答し、「できればなりたい」を合わせて54%が「なりたい」と回答（図33）。性別では女子よりも男子のほうが「なりたい」がやや多い。保護者にも同様に子どもにグローバル社会で通用する人材になってほしいかを尋ねたところ、11%が「ぜひなってほしい」、「できればなってほしい」を合わせると39%が「なってほしい」と考えていることがわかった。続柄別では母親よりも父親のほうが「なってほしい」割合が高い。

高校生・保護者それぞれにグローバル社会で通用する人材に必要な力とは何か尋ねた。高校生・保護者いずれも「コミュニケーション力」「語学力」がトップ2に挙がり、数値も突出していた（図34）。選んだ項目について、自分が「もっている」と思う人に力の程度を尋ねると、折れ線グラフのようになった。高校生、保護者とも「語学力」などが低い。

20

子どもを留学させたいか、理由は何か

▲4割が「させたくない」と消極的

図35 子どもの留学についての考え（保護者／単一回答）

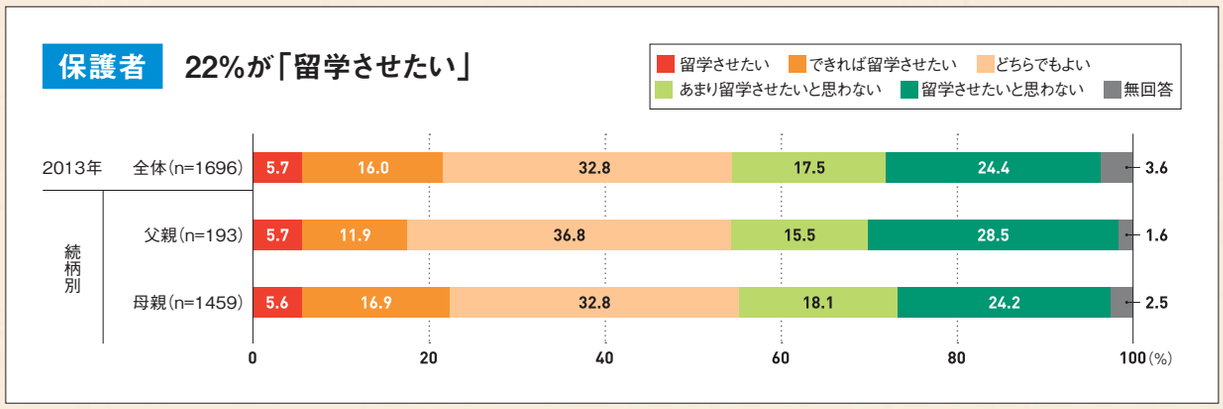


図37 留学させたくない理由（保護者：図35=「どちらでもよい」「あまり留学させたいと思わない」「留学させたいと思わない」回答者／複数回答）

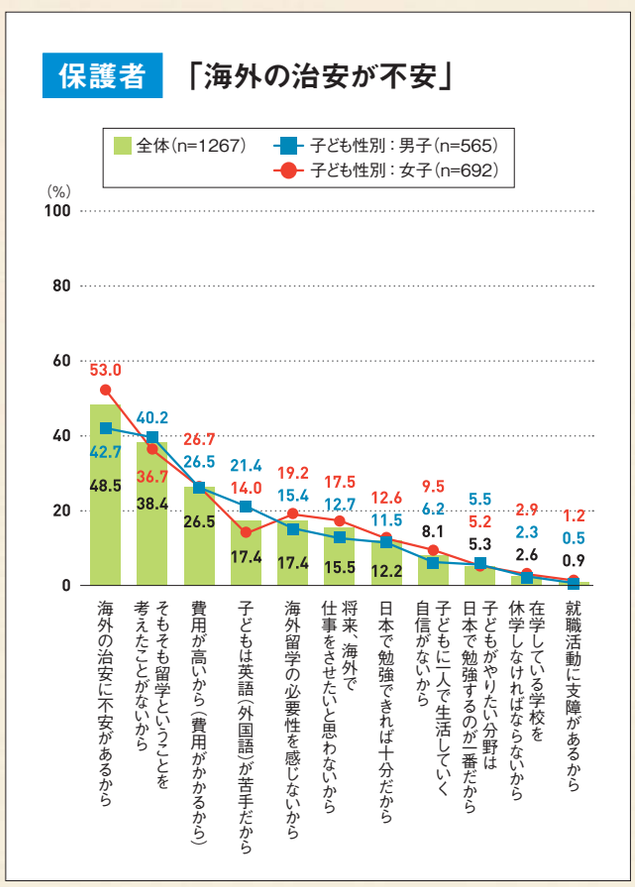
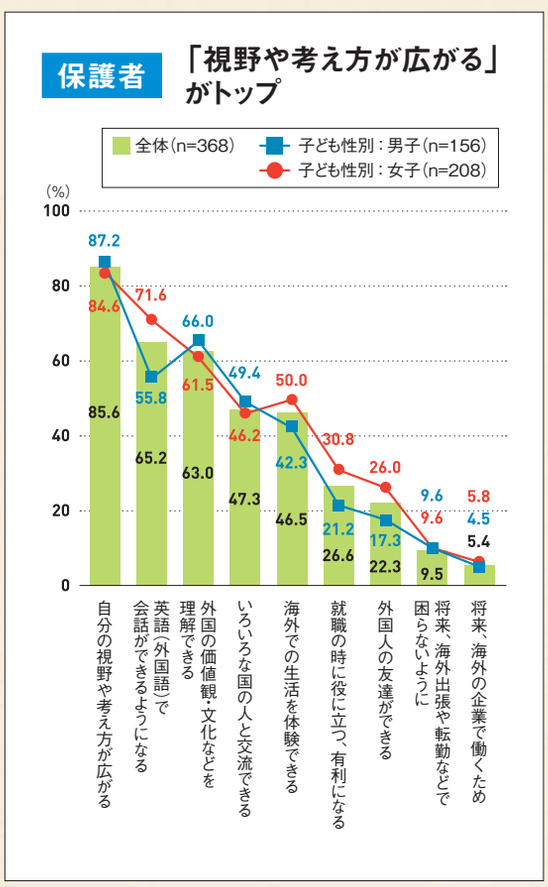


図36 留学させたい理由（保護者：図35=「留学させたい」「できれば留学させたい」回答者／複数回答）



子どもの成長を考える一方で海外の治安に不安を抱く

保護者に子どもを留学させたいと思うかを尋ねた。「留学させたい」「できれば留学させたい」合わせて22%が「留学させたい」と回答（図35）。父親より母親のほうがその値は高かった。一方、「あまり留学させたいと思わない」「留学させたいと思わない」を合わせると42%という結果に。

子どもを「留学させたい」と回答した保護者にその理由を尋ねたところ、「自分の視野や考え方が広がる」が86%と高く、次いで「英語（外国語）で会話ができるようになる」「外国の価値観・文化などを理解できる」（図36）。「就職の時に役に立つ、有利になる」は6番めと、就職時にメリットがあるとはあまり考えていない印象だ。

一方、「留学させたくない」「どちらでもよい」と回答した保護者にその理由を尋ねると、「海外の治安に不安があるから」が49%でトップ（図37）。子どもの男女別では、女子をもつ親のほうがその懸念は強い。「費用が高いから」は27%だった。